

群馬大学医学部の収容定員変更の趣旨

1. 収容定員変更の内容

群馬大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を実施し、併せて「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増を、また、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 7 名の臨時定員増を、さらに平成 23 年度に「新成長戦略」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 6 名の臨時定員増をそれぞれ実施した。その後、平成 31 年度を期限とする 18 名の入学定員について、令和 5 年度までの臨時定員増を再度実施した。

この度、令和 5 年度を期限とする 18 名の入学定員について、令和 6 年度までの期限を付した入学定員増を行い、令和 6 年度の入学定員について、定員増を行わなかった場合の 90 名から 108 名に変更する。

これにあわせて、収容定員についても令和 6 年度までの期限を付した臨時の入学定員増を踏まえ、再度の定員増を行わなかった場合の 615 名から 633 名に変更する。

2. 収容定員変更の必要性

本学では、かねてより地域医療を担う医師の減少に対し、医師の地域定着を促進するための地域保健・医療実践プログラムや教育課程を導入・実践してこの問題に取り組んできた。

しかし、群馬県内の 10 万人対医師数は、依然として全国平均を下回っている状況であり、将来時点(2036 年)における不足医師数の推計では不足養成数 78 というデータがある。実際、群馬県における医師不足、偏在に起因した住民の健康・福祉面での弊害が顕在化している状況がある。また、特定の診療科(産科、小児科、麻酔科、救急科、外科、整形外科)においても医師不足が顕著であるため、地域医療を担う医師の確保は、現在も喫緊の課題となっている。

本学では、引き続き入学定員を増員し、県内唯一の医学部として、より多くの地域医療を担う医師の養成を目指す予定としており、医師需要分科会の審議結果や群馬県の意向を注視している。

3. 収容定員変更に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の変更内容

本学では、卒業時に目指す学生の姿として「医学・医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(これをSESと呼ぶ)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる学生」を掲げている。SESの理念のもとに、卒業時に身につけておくべき力として、①自己省察力、②知識の獲得と知識を応用する力、③コミュニケーション能力、④チーム医療の中で協働する力、⑤基本的な総合診療能力、⑥地域医療の向上に貢献する能力、⑦医学研究を遂行する能力、⑧自己研鑽の8つを設定し、アウトカム基盤型の医学教育を推進している。また、平成 28 年度に改訂された「医学教育モデル・コア・カリキュラム(モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会及びモデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員

会とりまとめ)」に基づく体系的な医学教育課程を編成している。

地域医療を担う医療人を育成するための教育課程については既に実施しており、特に臨地実習においては、チーム医療実習、チームワークトレーニングのほか、国際的な評価基準に基づく医学教育分野別評価に対応するため診療参加型臨床実習を取り入れている。現行のカリキュラムで充分に対応可能であるのに加え、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点の連携校として令和5年度から2科目を新設し、地域医療教育のさらなる充実を図っている。

(2) 教育方法及び履修指導方法の内容

①地域医療教育

地域医療を担う医療人を養成するためには、入学後早期より地域医療の現場を体験し、将来地域医療を実践するための関心と意欲を高めることが効果的である。また、地域医療では特に重要となるチーム医療への理解と関心を深めるための実践的・体験的学習が必要となる。そのため本学では、群馬県地域での医療・介護・地域包括ケア等の実態を体験・理解するため「チーム医療実習」、「公衆衛生学」、「地域保健医療論」を行うほか、臨床実習前講義において、群馬県、地域医療関係者を講師に招き、政策や直面する課題等について学修している。令和5年度、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点の連携校として「はじめて学ぶ地域医療」、「県境地域から学ぶ地域医療集中演習(利根川プログラム)」の2科目を新設した。

正課外では、地域医療卒学生・卒後医師に対するキャリア相談・フォローアップとして個別面談やグループ面談を定期的実施するとともに、地域医療の現場で実際に見学・体験を行う「地域医療体験セミナー」、「数日型地域医療体験セミナー」、「群馬県臨床研修病院等見学バスツアー」を夏季・春季に複数回開催している。その他、地域医療卒学生・卒後医師、群馬県職員及び大学教職員との「地域医療卒学生情報交換会」や自治医科大学生・卒業医師との合同開催で「ぐんま地域医療合同フォーラム」を実施している。

(医系の人間学)

医学科1～3年次において実施している。附属病院の各部署を少人数グループで巡回し、医療現場を体験し患者さんや医療スタッフ等病院で働く人の話を聞くことにより、以降の学内外の実習に対する積極的な姿勢を身につける。また、講義の中でコミュニケーション能力の向上や医療安全の考え方を身につける内容を取り入れて、医師を目指すための基本的な考え方や地域医療を安全に提供する考え方を学ぶ。

(はじめて学ぶ地域医療～かしこく健康に生きる～)

令和5年より、1年次に実施している。地域における医療の実際と医療行政に関する知識を身につける講義に加え、医療圏を単位とした医師不足地域の課題及びその解決方法を探るグループワークを実施している。教養教育科目として共同教育学部、情報学部、医学部保健学科、理工学部の学生も履修しており、共にグループワークを行うことで、医療だけでなく教育、産業、環境からの視点も得られ、地域を複層的に理解することができる。また、埼玉医科大学との合同授業回では、双方の地域診断結果を発表しあうことで、群馬県における地域医療の状況等を他県とも比較しながら理解する機会も設けている。

(県境地域から学ぶ地域医療集中演習)

令和5年より、全学年を対象に実施している。医師不足が深刻化している群馬・埼玉県境地域の医療情勢に精通する総合医の養成に向け、事前・事後学習と地域の医療機関の見学・実習を通して、地域や住民の視点に立ち、県境地域で抱える医療的課題について学習する。埼玉医科大学の学生と共に見学・実習を行うことで、地域医療を志す他大学生と交流する機会も提供している。

(チーム医療実習・チームワーク実習)

2年次8～9月に実施している。介護老人保健施設、介護老人福祉施設等の協力により、4、5名程度のグループ実習を2週間毎日実施し、利用者の介護等を通してコミュニケーション能力の向上を図っている。また医療・介護現場での各職種の協力体制、さらには群馬県地域での医療・介護の実態、地域包括ケアシステムを体験、理解させ、以降の学修に役立てている。

さらに、保健学科学生（看護、臨床検査、理学療法、作業療法）と高崎健康福祉大学薬学部生を加えて医学生がチームワークトレーニング（4年次）に参加することにより、多職種にわたる医療職種間のチームワークの必要性を理解させることが可能となった。

早期に地域の医療施設や保健施設で実習を行うことは、多角的な視野から非常に有用であり、医療人としての気構えや奉仕の精神だけでなく、群馬県を中心とした地域の医療・介護の実態を肌で感じることで、将来の地域定着への意欲が養われる。協力施設の意見も取り入れながら、学生がより目的意識を明確にして取り組めるよう、継続的に実習内容の見直しを行っている。

(公衆衛生学)

3年次に実施している。公衆衛生についての講義と併せて地域の保健関連施設見学を行うことにより、地域保健に関する認識を深め、さらに地域医療に関わる医師の役割を認識し興味を持てるよう配慮している。

(地域保健医療論)

地域医療への関心と意欲を深めるための教育として、4～5年次に実施している。行政担当課や公衆衛生医師を講師に招き、群馬県における地域医療政策や現状と課題等について学修する。また、学生自身が地域保健、予防医学、医療過疎地診療などのテーマを設定し、チューター教員の指導のもと実習計画をたて、学外施設にて調査研究する地域保健実習を行っている。実習先は各地域の保健所、へき地診療所に限らず、学生の多様な希望に対応している。これにより、主に群馬県を中心とする地域の医療、保健、福祉の実態を身を以て体験させ、効果的に地域保健・医療への意欲を高める。

(臨床実習)

診療参加型臨床実習として、4年次1月～5年次11月に附属病院の臨床各科、各部署を3～4名のグループで1週間～6週間単位で巡回する必修実習と、5年次11月～6年次8月にかけて、群馬県下を中心とした病院・診療所（へき地診療所を含む）において、希望の

診療科を選択して原則4週間単位で最低24週間、うち学外の医療機関での実習を8週間以上行う選択実習を実施している。学外実習先医療機関の担当者には臨床教授・臨床准教授等の称号付与を行い、医学生教育の促進に努めている。

選択実習における学外実習は、実体験を通じて地域医療の現場に十分に接することができ、卒業後群馬県内での臨床研修を選択し、地域に定着することが期待される。

②地域貢献

(地域医療研究・教育センター)

地域医療研究・教育センターでは、「臨床研修部門(臨床研修センター)」、「スキルラボ部門」、「男女協働キャリア支援部門」、「看護職キャリア支援部門」、「地域医療支援部門(群馬県地域医療支援センター、ぐんま医療人ネットワーク)」、「看護師の特定行為研修部門」と「管理運営部門」の7部門が統合し、診療科・部門と連携し、将来の群馬県の医療を担う医療スタッフの育成とキャリア支援に努めている。さらに、地域医療や医療情勢に関する情報を調査し、「ぐんま地域医療会議」にて、群馬県の医療関係機関・団体が協調・連携し、医師をはじめとする医療スタッフの人材育成を図り、地域偏在の解消など地域医療全般を協議している。

③卒業臨床研修

卒業後2年間の初期臨床研修プログラムでは、群馬県、埼玉県及び栃木県の地域中核病院の協力により、本学医学部附属病院と地域中核病院においてそれぞれ1年間研修するコース(A又はBコース)と本学医学部附属病院で2年間研修するコース(Cコース)を設定している。また、原則研修2年目の必修科目として、外科、小児科、産科婦人科、精神科神経科、地域保健・医療を各1ヶ月設定し、さらに、基本研修科目の他に選択研修期間を8ヶ月とするなど、医師の地域定着並びに偏在の問題を意識したプログラムの構成が特徴となっている。

初期臨床研修修了後の進路として、シニアレジデント制度(後期専門研修プログラム)を導入しており、本学附属病院と充実した地域中核病院で研修を行うことによって、専門医取得に必要な多くの症例・手技を経験させ、医師の地域定着につなげている。

(3) 教員組織

大学院重点化に伴って診療体制もさらに強化するため、特に臨床現場で重要となる准教授・講師に「診療教授」「診療准教授」の称号を付与し、診療・臨床教育に意欲的に参加させている。

また、医学系研究科医学教育開発学講座(旧医学教育センター)と医学部附属病院地域医療研究・教育センターが「卒前医学教育、医師の卒業教育を一貫して行う」という理念のもと、学生教育・卒業教育及び研修業務を行っている。卒前教育に係る部分は、教授会、教務委員会とともに医学教育開発学が担当し、卒業後の臨床研修ならびに専門研修については地域医療研究・教育センターの臨床研修部門が担当している。臨床研修や新専門医制度に対応した専門研修修了後の医師の生涯教育についても、地域医療研究・教育センターの臨床研修部門が担当しており、両部署共に本学の医学教育において重要な位置づけとなっている。

令和6年度
医学部入学定員増員計画

群大企評1第29号
令和5年8月21日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人群馬大学長
石 崎 泰 樹
(公印省略)

「地域の医師確保等の観点からの令和6年度医学部入学定員の増加について（令和5年8月8日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	総務部企画評価課企画係長・樋口 康弘
	TEL	027-220-7015
	FAX	027-220-7030
	E-mail	kk-akikaku1@jimugunma-u.ac.jp

大学名	国公立
群馬大学	国立

1. 現在（令和5年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
108	15	0	723

↑
(収容定員計算用)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
(ア) 入学定員	108	108	108	108	108	108	648
(イ) 2年次編入学定員	15	15	15	15	15	0	75
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	123	123	123	123	123	108	723

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和6年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
90	15	0	615

↑
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	90	90	90	90	90	90	540
(イ) 2年次編入学定員	15	15	15	15	15	0	75
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	105	105	105	105	105	90	615
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和6年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
108	15	0	633

↑
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	108	90	90	90	90	90	558
(イ) 2年次編入学定員	15	15	15	15	15	0	75
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	123	105	105	105	105	90	633
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 **18**

↑
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	18
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	0
計	18

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 18

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	群馬県	18
大学所在地以外の都道府県		
計		18

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R4地域枠定員 (※1)	R4貸与者数 (※2)	R5地域枠定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R4とR5の貸与者数のうち多い方の数
群馬県	18	18	18	18	18
					0
					0
					0
					0
計	18	18	18	18	18

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和6年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

①令和4年度に実施した地域枠学生(令和5年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の限定の有無	(診療科の限定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
一般選抜	(iii) 一般選抜地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	6	6	大学入学共通テスト、個別学力検査等、調査書及び志願理由書(地域医療枠で出願する者のみ)を総合して判定	次のいずれかに該当するもの (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校の卒業生若しくは卒業見込みの者 (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育又は専修学校の高等課程の修了者若しくは修了見込みの者 (3)学校教育法第90条第2項の規定により群馬大学以外に入学した大学の所在地が群馬県にある者 (4)(3)以外の者で群馬県に所在する大学又は大学院の在学者、卒業(修了)者若しくは卒業(修了)見込みの者 (5)上記(1)から(4)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの ①出願時の住所が群馬県内にある者 ②出願時に父母、祖父母又は配偶者の	推奨	群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の特定病院又は特に不足する診療科	H22	
学校推薦型選抜	(i) 学校推薦型選抜	別枠(区別型)	12	12	大学入学共通テスト、面接・小論文及び出願書類(調査書、推薦書、適性資質調査書、志願理由書(地域医療枠で出願する者のみ))を総合して判定	次のいずれかに該当するもの (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育を修了見込みの者 (3)上記(1)及び(2)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの ①出願時の住所が群馬県内にある者 ②出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者 ③出願時の本籍が群馬県内にある者	推奨	群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の特定病院又は特に不足する診療科	H21以前	
合計			18	18						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和5年度に実施する地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法（※1）	出願要件（※1）	診療科の限定の有無	（診療科の限定（推奨）がある場合）その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
一般選抜	(iii) 一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	6	6	大学入学共通テスト、個別学力検査等、調査書及び志願理由書（地域医療枠で出願する者のみ）を総合して判定	次のいずれかに該当するもの (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校の卒業者若しくは卒業見込みの者 (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育又は専修学校の高等課程の修了者若しくは修了見込みの者 (3)学校教育法第90条第2項の規定により群馬大学以外に入学した大学の所在地が群馬県にある者 (4)(3)以外の者で群馬県に所在する大学又は大学院の在学者、卒業（修了）者若しくは卒業（修了）見込みの者 (5)上記(1)から(4)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの ①出願時の住所が群馬県内にある者 ②出願時に父母、祖父母又は配偶者の次のいずれかに該当するもの	推奨	群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の特定病院又は特に不足する診療科	H22	
学校推薦型選抜	(i) 学校推薦型選抜	別枠（区別型）	12	12	大学入学共通テスト、面接・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、適性資質調査書、志願理由書（地域医療枠で出願する者のみ））を総合して判定	次のいずれかに該当するもの (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育を修了見込みの者 (3)上記(1)及び(2)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの ①出願時の住所が群馬県内にある者 ②出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者 ③出願時の本籍が群馬県内にある者	推奨	群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の特定病院又は特に不足する診療科	H21以前	
合計			18	18						

（※1）貴大学において、PRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）に記載の内容（貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容）をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和6年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

教養教育科目に「はじめて学ぶ地域医療」、専門科目に全学年を対象とした「県境地域から学ぶ地域医療集中演習」、1年次に「医系の人間学1A, 1B」、2年次に「医系の人間学2A, 2B」「チーム医療実習」、3年次に「医系の人間学3A, 3B, 3C」を開講し、地域で暮らす人の気持ちやエンドオブライフまで人の一生の中での本人と家族の気持ちの変化と地域で暮らす人が望むことを、附属病院や県内の医療施設において地域医療連携や包括ケアについて、臨地実習にて幅広く学んでいる。3年次に「公衆衛生学」を開講し、公衆衛生の意義を学んでいる。4年次には保健学科学生と合同で実施する「チームワークトレーニング」で多職種連携について学んでいる。

また、臨床実習では、診療参加型実習の拡充を図り、人口対医師数が少ない県央以外の地域にある病院・診療所（へき地診療所を含む）での実習を4週間以上行うなど、地域の特性に応じた医療について学ぶ機会を提供している。6年次には「地域保健医療論」を開講し、実習を通して公衆衛生の意義を深く学んでいる。

（参考：記入例）
1～2年次には、「〇〇」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和4年度からは、■ ■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成21年度から地域医療枠による増員を開始し、地域医療に関する職場体験のセミナーやフォーラム、情報交換会などの取組を行っている。また、卒後の進路やキャリア形成について低学年次にはグループ面談、5・6年次には個別面談を実施している。令和5年度までに254名の地域枠学生を確保し、そのうち133名が地域医療に貢献している。

（参考：記入例）
平成〇年度から地域枠による増員を開始し、□□、■ ■などの取組を行ってきた。令和4年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修/選択の別		講義/実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年	はじめて学ぶ地域医	全員	選択	選択	講義	2	R5
1-6年	県境地域から学ぶ地域医療集中演習	全員	選択	選択	演習	2	R5
1年・2年編	医系の人間学1A	全員	必修	必修	講義/実習	3	R2
1年	医系の人間学1B	全員	必修	必修	講義/実習	3	R2
2年	医系の人間学2A	全員	必修	必修	講義/実習	3	R3
2年	医系の人間学2B	全員	必修	必修	講義/実習	3	R3
2年	チーム医療実習	全員	必修	必修	実習	2	H21以前
3年	公衆衛生学	全員	必修	必修	実習	2	H21以前
3年	医系の人間学3A	全員	必修	必修	講義/実習	2	R4
3年	医系の人間学3B	全員	必修	必修	講義/実習	1	R4
3年	医系の人間学3C	全員	必修	必修	講義/実習	1	R4
4年	チームワークトレーニング	全員	選択必修	選択必修	実習	2	H28
6年	地域保健医療論	全員	必修	必修	実習	1	H24

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修/選択の別を「選択」とご記載ください。）

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：○週 間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和4年度以前から継続する取組を含む) (1～2行程度)

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法律第64号）第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。

なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額（例：200,000）		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定の有無	（診療科の限定（推奨）がある場合） その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無（※1）			
群馬県	18	新入生	100,000又は 150,000	7,482,000 又は 11,082,000	次の①～③の要件をすべて満たした場合 ①卒業後、貸与を受けた期間の3分の5に相当する期間（従事必要期間）、県内の特定病院で臨床研修及び診療業務に従事すること。 ②4年間以上は、将来勤務することとなる時点の保健医療計画に明記される「医師不足地域」の特定病院又は「特に不足する診療科」のうちから、被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する医療機関又は診療科に勤務すること（へき地医療拠点病院又はへき地診療所に勤務する場合は3年間以上）。 ③従事必要期間は、群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」に参加すること。	④その他（備考欄に記入）	×	推奨	群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の特定病院又は特に不足する診療科	<ul style="list-style-type: none"> ●貸与額について 貸与額は、本人及び生計を一にする者の所得の合計が1,500万円以上の場合10万円/月、1,500万円未満の場合15万円/月 ※初年度は入学料282千円を加算 <ul style="list-style-type: none"> ●選抜方法 地域枠の入学者に対し、返還免除要件等の説明及び面談を実施

（※1）診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。（例：在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
5、6年生に対する個別面談	地域医療支援センター専任医師と県職員が協同で、地域医療に関する情報提供も含めた個別面談を実施	H26
各種セミナー等の開催	県内病院の見学や、先輩医師の体験談を聞く座談会等の実施	H25
卒後医師に対する個別面談	卒後のキャリア形成を支援するため、地域医療支援センター専任医師と県職員が協同して隔年で個別面談を実施	H28

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1～2に記入したもの以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

地域医療への興味を高めてもらうことを目的に、県と大学で連携し、医学部進学を目指す高校生を対象にした職場（病院）体験を実施している。

高校生向け各種セミナー：県内病院の見学やシミュレータ体験、研修医等との座談会を実施

高校生向け情報発信：県内の医療情勢や病院機能、また、受験に関する医学生からのアドバイス等について、特設サイトや動画にて配信

高校生向け説明会：医学部医学科進学や地域医療枠制度について、県内高校生向けに説明会や動画配信を実施

2. 研究医養成のための入学定員増について

増員希望人数

(1) 令和6年度研究医養成のための入学定員増について

大学が講ずる措置

※令和5年度までの取組を継続して行う場合には、必要に応じて見直しを行ったうえで、当該取組も記載すること。

1. コンソーシアムの形成

①以下をご記入ください。複数のコンソーシアムを形成している場合には、コンソーシアムごとにご記入ください。

	連携大学	取組の概要（1～3行程度）	（連携先大学が研究医枠による増員を行っている場合） 連携大学との役割分担（※1）	開始年度
No.1				
No.2				
No.3				

2. 特別コース（※）の設定

（※）「特別コース」とは、学部・大学院教育を一貫して見通した研究医養成のための重点的プログラムを指します。

①特別コースの概要について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。その際、平成22年度～令和5年度に実施した取組で継続して行うもののほか、令和6年度に新たに行おうとする取組についてもご記入ください。

（選抜の時期、授業内容、特別コースに入ることにより大学院進学が促進される仕組み（MD-PhD、単位の先行履修、論文認定、キャリア支援の取組など）

	<p>（参考：記入例） MD-PhDコースや▲年次での大学院進学を促すとともに、○年次に選抜を行い、「○○」という科目等を開講して～～を学んでいる。学部・大学院で一貫した研究を促すため、△△、□□を行っている。またキャリア支援として、～～を実施している。令和5年度からは、■ ■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②研究医養成のための一貫した特別コースについて、以下をご記入ください。併せて、概要がわかる資料をご提出ください。

選抜の時期（※1）	コースの名称	年次	募集定員（※2）	大学院への進学時期（※3）	開始年度	備考
選抜入試						
特定の学年次に希望者を募集						
その他（備考欄に詳細を記入）						

（※1）複数段階に分けて選抜を行っている場合には、該当する全てに○をご記入ください。

（※2）最低人数を定めている場合には、「○名以上」という形でご記入ください。

（※3）特別コースの学生の大学院進学時期について全てご記載ください。（例：5年次（MD-PhD）／卒後直後に進学／卒後、臨床研修後に進学／卒後、臨床研修と並行して進学）

③研究医養成のための選抜入試について、以下をご記入ください。

研究医養成のために特別な入試を実施しているか。

（「○」を選択した場合）以下をご記入するとともに、募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	募集人数		選抜方法（※1）	開始年度	備考
			うち臨時定員分			
合計		0	0			

（※1）貴大学において、PRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）に記載の内容（貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容）をご記入ください。

※複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

④研究医養成のための教育内容（正規科目）について、以下をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実 習の別	単位数	開始年度
			研究医コース 学生	その他の 学生			

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。(研究医コース学生の希望者のみの場合は、対象者を「研究医コース学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。)

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑤大学の正規科目以外で、研究医養成プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	期間 (例：○週)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑥特別コースに関する取組のうち、以下の項目に関連するものについてご記入ください。なお、必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

(項目：専用の入試枠の設定による選抜の実施、学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置、学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築、臨床研修により研究活動が中断されることのないようにするための配慮、研究医となった際の常勤ポストの確保、海外での研修の機会(1か月以上))

(項目)	概要(1~2行程度)	開始年度

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑦上記②~⑥以外に、研究医養成の特別コースに関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。

(令和5年度以前から継続する取組を含む)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑧特別コースの履修者の確保状況について、以下をご記入ください。

	R3	R4	R5	直近3年間の平均
人数(名)				#DIV/0!

※当該年度の新規履修者のみを計上してください。

3. 奨学金の設定

①卒後一定期間の研究医としての従事を要件とする奨学金の設定について、以下をご記入ください。

複数の奨学金を設定している場合には、それぞれについてご記入ください。

	名称	設定主体 (例：大 学、〇〇財)	給付／貸与 の別	支給対象	募集人数	選抜の有無	支給期間 (例：大学院1～3年次 (3年間))
No.1							
No.2							
No.3							

(続き)

	支給額 (例：200,000)		返還免除要件	開始年度	備考
	月額	総支給額			
No.1					
No.2					
No.3					

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

(2) 研究医養成拠点として相応しい実績

①-1. 継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(入学年度)	R3	R4	R5	直近3年間の平均
基礎・社会系大学院進学者数 (【A】)				#DIV/0!
臨床系大学院進学者数 (【B】)				#DIV/0!

(博士課程修了年度)	R2	R3	R4	直近3年間の平均
【A】の修了者数 (【C】)				#DIV/0!
【B】のうち、基礎・社会学系の論文 (又は共著論文) を執筆した修了者数 (【D】)				#DIV/0!
合計	0	0	0	0

①-2. その他、継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

②-1. 継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(博士課程修了年度)	R2	R3	R4	直近3年間の平均
【C】【D】のうち、基礎・社会学研究分野の就職者数				#DIV/0!
【C】【D】のうち、臨床系に就職したが基礎・社会学研究に従事する者等の数 (※1)				#DIV/0!
合計	0	0	0	0

(※1) 一度臨床系 (基礎系以外) に進んだものの実態としては研究に従事している又は従事する見込みがある者の数。

(例: 臨床医として働きながら研究活動を行っている者、常勤ポストではないが大学の身分を有し研究活動を行っている者、現在臨床医として勤務しているが将来的に研究に従事する意思を大学が確認している者)

②-2. その他、継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

③大学教育改革の支援に関する補助事業の採択実績等

※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

採択事業名	採択年度 (○年度 ～○年)	概要(1～3行程度)

④他大学と比較した際に研究医養成拠点として相応しいと考えられる客観的な実績(科学研究費採択率等)

※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

概要(1～3行程度)

(3) 過去に研究医枠による入学定員増を実施した場合の令和5年度における状況

①過去に入学定員増を実施した際に計画していた研究医養成に関する取組について、その有効性が高いことを確認している旨を、確認方法等とともにご記入ください。

(例：第三者による評価、学内委員会による評価)

--

大学別医学部入学定員一覧

大学名	属性 (国公私)	R5年度定員	本増員計画による 入学定員増を行わ ない場合の令和4 年度の入学定員	R6年度 増員数	R6年度 定員 (計画)
群馬大学	国立	108	90	18	108

大学名	令和5年度定員	本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和6年度の入学定員	令和6年度増員計画			令和6年度定員(計画)	令和6年度増員計画
							教育内容の概要
			増員数	都道府県ごとの内訳			
群馬大学	108	90	地域枠	18	群馬県	18	<p>教養教育科目に「はじめて学ぶ地域医療」、専門科目に全学年を対象とした「県境地域から学ぶ地域医療集中演習」、1年次に「医系の人間学1A, 1B」、2年次に「医系の人間学2A, 2B」「チーム医療実習」、3年次に「医系の人間学3A, 3B, 3C」を開講し、地域で暮らす人の気持ちやエンドオブライフまで人の一生の中での本人と家族の気持ちの変化と地域で暮らす人が望むことを、附属病院や県内の医療施設において地域医療連携や包括ケアについて、臨地実習にて幅広く学んでいる。3年次に「公衆衛生学」を開講し、公衆衛生の意義を学んでいる。4年次には保健学科学生と合同で実施する「チームワークトレーニング」で多職種連携について学んでいる。</p> <p>また、臨床実習では、診療参加型実習の拡充を図り、人口対医師数が少ない県外以外の地域にある病院・診療所（へき地診療所を含む）での実習を4週間以上行うなど、地域の特性に応じた医療について学ぶ機会を提供している。6年次には「地域保健医療論」を開講し実習を通して公衆衛生の意義を深く学んでいる。</p>
					0	0	
					0	0	
					0	0	
					0	0	
					0	0	
			研究医枠	0		0	



一部抜粋

一般選抜 2023年度(令和5年度) 学生募集要項

新型コロナウイルス感染症の状況により、選抜方法等が変更となる可能性がありますので、本学ホームページで最新情報を確認してください。

群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

Ⅳ 医学部

1. 志望方法

日程	学科	出願区分	志望方法
前期日程	医学科	一般枠	左記出願区分から1つを選び志望してください。
		地域医療枠	
日程	学科	専攻	志望方法
前期日程 ・ 後期日程	保健学科	看護学専攻	第1志望のみとします。
		検査技術科学専攻	
		理学療法学専攻	理学療法学専攻及び作業療法学専攻を組み合わせ、第1、第2志望とすることができます。なお、第1志望のみとすることもできます。
		作業療法学専攻	

注1 入学後の転学科は認めていないので、志望選択に当たっては十分留意してください。

○ 医学科の出願区分について

合格者の判定はそれぞれの出願区分の基準により実施します。

①一般枠

医師や医学研究者等を目指す一般的な選抜枠で、群馬県からの修学資金貸与を希望しない場合の出願区分です。

②地域医療枠

群馬県での将来の医療を担うという強い意志を持ち、群馬県からの修学資金貸与を希望する場合の出願区分です。なお、入学後、地域医療枠を辞退することは、出願要件の趣旨に反することから、理由の如何を問わず認めません。

また、合格判定の結果、合格とならなかった場合、一般枠にて再度合格者の判定を行います。

- ・群馬県の修学資金貸与制度の概要は、下記の「群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について（一般選抜）」を参照してください。
- ・地域医療枠合格者は、群馬大学医学部や群馬県等が企画する県内医療に関する特別プログラムに参加します。
- ・地域医療枠合格者は、卒業後10年間は、群馬大学医学部附属病院を含む群馬県内の特定病院の中から選択し、臨床研修及び診療業務に当たります。医師としての柔軟なキャリア形成が可能です。後出のキャリアモデルを参考にしてください。

群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について（一般選抜）

1 対象者要件

「4. 出願資格等」(37 ページ) に示す出願資格に該当する者であって、次のいずれかに該当するもの

- (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校の卒業生若しくは卒業見込みの者
- (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育又は専修学校の高等課程の修了者若しくは修了見込みの者
- (3)学校教育法第90条第2項の規定により群馬大学以外に入学した大学の所在地が群馬県にある者
- (4)(3)以外の者で群馬県に所在する大学又は大学院の在学者、卒業(修了)者若しくは卒業(修了)見込みの者
- (5)上記(1)から(4)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの
 - ①出願時の住所が群馬県内にある者
 - ②出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者
 - ③出願時の本籍が群馬県内にある者

2 提出書類

「5. 出願手続」(7)提出が必要な出願書類等(49～51 ページ)に示す出願書類のほか、次の書類をあわせて提出すること。

なお、(1)～(4)の書類にあつては、上記1(1)、(2)又は(3)に該当する者は除きます。

- (1)〔1(4)に該当する者〕 在学証明書、卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書
- (2)〔1(5)①に該当する者〕 住民票の写し

- (3)〔1(5)②に該当する者〕 父母、祖父母又は配偶者の住民票の写し及び出願者との関係がわかるもので次のいずれか一つ。
- ・住民票の写し（続柄が記載されているもの）
 - ・出願者の出身高等学校等が発行する証明書（任意様式・学校長の証明印があるもの）
 - ・健康保険証の写し（続柄が記載されているもの）
 - ・市(区)役所、町村役場が発行するもので関係がわかるもの
- (4)〔1(5)③に該当する者〕 市(区)役所、町村役場が発行するもので本籍が証明できるもの
- ※住民票の写しは、出願日前3ヶ月以内に発行されたもので、個人番号（マイナンバー）が記載されていないものとします。
- (5)〔全員〕 所定の様式に本人及び保護者（又は法定代理人）が署名、押印した同意書

3 貸与期間

6年間

4 修学資金貸与額（予定）

原則月額10万円（ただし、本人及び生計を一にする者の所得額の合計が1,500万円未満の場合は15万円）

※「生計を一にする者」とは、主に、次に掲げる者

- ・修学資金の貸与を受けようとする者と同一世帯の父母
- ・修学資金の貸与を受けようとする者の所得税法(昭和40年法律第33号)第2条第1項第33号に規定する同一生計配偶者
- ・その他、これらに類する者と知事が認める者

※初年度は、入学金相当額が加算されて貸与されます。

5 貸与条件

- (1)群馬県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、卒業後、県内の特定病院において、貸与期間の3分の5に相当する期間(10年間＝従事必要期間)、卒後臨床研修及び診療業務に従事すること。
- (2)従事必要期間(10年間)のうち、臨床研修修了後の4年間以上は、群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の特定病院又は特に不足する診療科のうちから被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する特定病院又は診療科に勤務すること。ただし、へき地医療拠点病院又はへき地診療所に勤務する場合は3年間以上とする。
- (3)従事必要期間(10年間)は、群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」に参加すること。

〔補足〕

- ・「医師不足地域」、「特に不足する診療科」は、将来、勤務することとなる時点の保健医療計画に明記されます。
 - ・貸与期間中に修学資金貸与を辞退することは、原則として認めません。
- また、留年した場合は、当該留年に係る期間は貸与を受けることができません。

6 返還

卒業後、県内の特定病院において、従事必要期間(10年間)、卒後臨床研修及び診療業務に従事した場合は、修学資金の返還が全額免除されます。

しかし、次のような場合は、貸与期間に年10%の割合で計算した利息を加算して、貸与した修学資金を返還することが必要です。

- ・貸与条件を満たさないこととなった場合
(ただし、特定病院における在職期間に応じて、返還が一部免除になります。)
- ・卒業の翌年までの医師国家試験に合格できなかった場合
- ・卒業後、県内の特定病院で臨床研修に従事しなかった場合

7 貸与手続

入試合格後、群馬県による意思確認の面接を経て、群馬県との間で貸与手続（貸与申請書の提出、貸与契約書の締結等）を行います。その際、連帯保証人2名が必要です。

※詳細は別途案内します。

なお、修学資金は、二月ごとにその期間分を貸与する予定です。

《制度の特色》

群馬県による本制度には下記のような特色がありますので、卒後臨床研修先の選定や、その後の診療業務、大学院進学、留学、研修等について、柔軟に計画することが可能となります。

①卒業後に従事する特定病院は、被貸与者が選択することができます。

ただし、「5. 貸与条件」(2)に示す特定病院又は診療科は被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する特定病院又は診療科になります。

②群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」により、卒業後10年間のキャリア形成を支援します。キャリアパスは、地域間・病院間ローテーションにより、キャリアアップと地域医療への貢献を実践できるものです。

③卒業後、従事必要期間は県内の特定病院での従事が必要となりますが、次のようなケースは返還義務中断期間として認められます。

i) 疾病・災害で業務に従事できなかった期間

ii) 産休・育児休業した期間

iii) 大学院（医学を履修する課程に限る）に在学した期間→5年まで可

iv) 外国の大学・大学院、医療機関、研究機関等において医学研修等に従事した期間→5年まで可

v) 特定病院で実施する専門研修のプログラムの一環として特定病院以外の病院に勤務した期間→3年まで可

vi) 県の医療水準向上に資する専門知識修得のため特定病院以外の病院に勤務した期間→3年まで可

《特定病院について》

「県内の特定病院」には、群馬大学医学部附属病院のほか、次の病院が予定されています。いずれも公的な側面が強い地域の中核的な病院です。これらの病院の医師不足解消も大きな目的の一つです。

群馬県立心血管センター、群馬県立がんセンター、群馬県立精神医療センター、群馬県立小児医療センター、前橋赤十字病院、独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院、群馬県済生会前橋病院、独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター、医療法人社団日高会日高病院、公立碓氷病院、独立行政法人国立病院機構渋川医療センター、公立藤岡総合病院、藤岡市国民健康保険鬼石病院、下仁田厚生病院、公立富岡総合病院、公立七日市病院、吾妻広域町村圏振興整備組合立中之条病院、原町赤十字病院、西吾妻福祉病院、独立行政法人国立病院機構沼田病院、利根中央病院、伊勢崎市市民病院、桐生厚生総合病院、SUBARU健康保険組合太田記念病院、公立館林厚生病院

以上のほか、協力型臨床研修病院、へき地診療所、二次救急輸番病院。

《その他》

地域医療枠への出願に当たっては、「地域医療枠受験希望者向け説明動画」（群馬大学・群馬県作成）を必ず視聴し、制度を十分御理解ください。

説明動画を視聴する場合は、ぐんま電子申請受付システム

(https://s-kantan.jp/pref-gunma-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=4990) から必要事項を入力し、お申込みください。動画配信後、視聴用 URL を御案内します。

《修学資金貸与制度に関する問合せ先》

群馬県庁 健康福祉部医務課 医師確保対策室 電話：027 - 226 - 2540（直通）

地域医療枠合格者の卒業後のキャリアモデル

- 1) 専門研修の間に、群馬大学大学院医学系研究科の社会人入試制度を利用して、返還義務期間を中断することなく、博士（医学）の学位を取得することもできる。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や県内 の臨床研修病院 での研修	専門研修
		群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。この期間中の4年間、群馬大学大学院医学系研究科に社会人入試で入学し、研究論文をまとめ博士（医学）の学位を取得することもできる。
10年間		

- 2) 大学院医学系研究科に入学し、先端研究に従事して博士（医学）の学位を取得する。
大学院在学中の期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や県内 の臨床研修病院 での研修	大学院医学系研究科	専門研修
		博士課程一般入試で入学して先端研究に従事し、博士（医学）の学位を取得する。 [中断期間]	群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、臨床研究を進めたり、専門医取得の研修などを行う。
中断期間を除く10年間			

- 3) 県外での病院研修や海外留学を行い、その期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や県内 の臨床研修病院 での研修	専門研修	県外研修	群馬大学医学部附属病院など県内の特定病院に勤務し、県外で得られた技術を活用したり、専門医取得の研修などを行う。
		群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。	県外の病院での臨床技術の習得や海外留学。※ [中断期間]	
中断期間を除く10年間				

※県外の病院での臨床技術の習得は、特定病院で実施する専門研修のプログラムの一環としての場合に限りです。

- 4) 産休・育児休業の期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や県内 の臨床研修病院 での研修	専門研修	産休・育休 [中断期間]	専門研修
		群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。		群馬大学医学部附属病院など県内の特定病院に勤務する。複数の専門医取得の研修も可能。
中断期間を除く10年間				

(注)上記は、群馬県の修学資金貸与制度の特色である、返還義務中断期間を活用しながら、卒業後のキャリアアップなどを図るモデルケースです。返還義務中断期間の取扱いで御不明な点は群馬県ホームページの「群馬県緊急医師確保修学資金制度」の御案内 (<https://www.pref.gunma.jp/02/d1010069.html>) を御覧になるか、群馬県庁健康福祉部医務課医師確保対策室 (027-226-2540) へお問合わせください。また、キャリア形成については群馬県地域医療支援センター (027-220-7938) へお問合わせください。

2023年度

(令和5年度)

学校推薦型選抜 学生募集要項

新型コロナウイルス感染症の状況により選抜方法等が変更となる可能性がありますので本学ホームページで最新情報を確認してください。



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

1 対象者要件

「出願資格」（39ページ）及び「出願要件」（43ページ）に該当する者であって、次のいずれかに該当するもの

- (1) 群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者
- (2) 群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育を修了見込みの者
- (3) 上記(1)及び(2)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの
 - ① 出願時の住所が群馬県内にある者
 - ② 出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者
 - ③ 出願時の本籍が群馬県内にある者

2 提出書類

「4出願手続(7)提出が必要な出願書類等」（53～54ページ）に示す出願書類のほか、次の書類をあわせて提出すること。

なお、(1)～(3)の書類にあっては、上記1(1)又は(2)に該当する者は除きます。

- (1) [1(3)①に該当する者] 住民票の写し
- (2) [1(3)②に該当する者] 父母、祖父母又は配偶者の住民票の写し及び出願者との関係がわかるもので次のいずれか一つ。
 - ・住民票の写し（続柄が記載されているもの）
 - ・出願者の出身高等学校等が発行する証明書（任意様式・学校長の証明印があるもの）
 - ・健康保険証の写し（続柄が記載されているもの）
 - ・市(区)役所、町村役場が発行するもので関係がわかるもの
- (3) [1(3)③に該当する者] 市(区)役所、町村役場が発行するもので本籍が証明できるもの
※住民票の写しは、出願日前3ヶ月以内に発行されたもので、個人番号（マイナンバー）が記載されていないものとします。
- (4) [全員] 所定の様式に本人及び保護者（又は法定代理人）が署名、押印した同意書

3 貸与期間

6年間

4 修学資金貸与額（予定）

原則月額 10万円（ただし、本人及び生計を一にする者の所得額の合計が1,500万円未満の場合は15万円）

※「生計を一にする者」とは、主に、次に掲げる者

- ・修学資金の貸与を受けようとする者と同一世帯の父母
- ・修学資金の貸与を受けようとする者の所得税法(昭和40年法律第33号)第2条第1項第33号に規定する同一生計配偶者
- ・その他、これらに類する者と知事が認める者

※初年度は、入学金相当額が加算されて貸与されます。

5 貸与条件

- (1) 群馬県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、卒業後、県内の特定病院に

において、貸与期間の3分の5に相当する期間（10年間＝従事必要期間）、卒後臨床研修及び診療業務に従事すること。

- (2) 従事必要期間（10年間）のうち、臨床研修修了後の4年間以上は、群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の特定病院又は特に不足する診療科のうちから被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する特定病院又は診療科に勤務すること。ただし、へき地医療拠点病院又はへき地診療所に勤務する場合は3年間以上とする。
- (3) 従事必要期間（10年間）は、群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」に参加すること。

[補足]

- ・「医師不足地域」、「特に不足する診療科」は、将来、勤務することとなる時点の保健医療計画に明記されます。
- ・貸与期間中に修学資金貸与を辞退することは、原則として認めません。
また、留年した場合は、当該留年に係る期間は貸与を受けることができません。

6 返還

卒業後、県内の特定病院において、従事必要期間（10年間）、卒後臨床研修及び診療業務に従事した場合は、修学資金の返還が全額免除されます。

しかし、次のような場合は、貸与期間に年10%の割合で計算した利息を加算して、貸与した修学資金を返還することが必要です。

- ・貸与条件を満たさないこととなった場合（ただし、特定病院における在職期間に応じて、返還が一部免除になります。）
- ・卒業の翌年までの医師国家試験に合格できなかった場合
- ・卒業後、県内の特定病院で臨床研修に従事しなかった場合

7 貸与手続

入試合格後、群馬県による意思確認の面接を経て、群馬県との間で貸与手続（貸与申請書の提出、貸与契約書の締結等）を行います。その際、連帯保証人2名が必要です。

※詳細は別途案内します。

なお、修学資金は、二月ごとにその期間分を貸与する予定です。

《制度の特色》

群馬県による本制度には下記のような特色がありますので、卒後臨床研修先の選定や、その後の診療業務、大学院進学、留学、研修等について、柔軟に計画することが可能となります。

- ① 卒業後に従事する特定病院は、被貸与者が選択することができます。
ただし、「5 貸与条件」(2) に示す特定病院又は診療科は被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する特定病院又は診療科になります。
- ② 群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」により、卒業後10年間のキャリア形成を支援します。キャリアパスは、地域間・病院間ローテーションにより、キャリアアップと地域医療への貢献を实践できるものです。
- ③ 卒業後、従事必要期間（10年間）は県内の特定病院での従事が必要となりますが、次のようなケースは返還義務中断期間として認められます。
 - i) 疾病・災害で業務に従事できなかった期間
 - ii) 産休・育児休業した期間
 - iii) 大学院（医学を履修する課程に限る）に在学した期間→5年まで可

- iv) 外国の大学・大学院、医療機関、研究施設等において医学研修等に従事した期間→5年まで可
- v) 特定病院で実施する専門研修のプログラムの一環として特定病院以外の病院に勤務した期間→3年まで可
- vi) 県の医療水準向上に資する専門知識習得のため特定病院以外の病院に勤務した期間→3年まで可

《特定病院について》

「県内の特定病院」には、群馬大学医学部附属病院のほか、次の病院が予定されています。いずれも公的な側面が強い地域の中核的な病院です。これらの病院の医師不足解消も大きな目的の一つです。

群馬県立心臓血管センター、群馬県立がんセンター、群馬県立精神医療センター、群馬県立小児医療センター、前橋赤十字病院、独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院、群馬県済生会前橋病院、独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター、医療法人社団日高会日高病院、公立碓氷病院、独立行政法人国立病院機構渋川医療センター、公立藤岡総合病院、藤岡市国民健康保険鬼石病院、下仁田厚生病院、公立富岡総合病院、公立七日市病院、吾妻広域町村圏振興整備組合立中之条病院、原町赤十字病院、西吾妻福祉病院、独立行政法人国立病院機構沼田病院、利根中央病院、伊勢崎市民病院、桐生厚生総合病院、SUBARU健康保険組合太田記念病院、公立館林厚生病院

以上のほか、協力型臨床研修病院、へき地診療所、二次救急輪番病院。

《その他》

地域医療枠への出願に当たっては、「地域医療枠受験希望者向け説明動画」（群馬大学・群馬県作成）を必ず視聴し、制度を十分御理解ください。

説明動画を視聴する場合は、ぐんま電子申請受付システム (https://s-kantan.jp/pref-gunma-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=4990) から必要事項を入力し、お申込みください。動画配信後、視聴用URLを御案内します。

《修学資金貸与制度に関する問合せ先》

群馬県庁 健康福祉部医務課 医師確保対策室 電話：027-226-2540（直通）



将来、地元で活躍する医師になりたい!

ぐんまの医師生活 120%上昇

▶ 医学部版! 受験のトリセツ

▶ センターの取り組み

▶ 保護者も知りたい地域医療枠

医師になるには?
(高校生Gドクターズ
申込フォーム)

新人医師です!
座談会
~新人医師のライフスタイル~

体験してみよう!
mini VRセミナー

医師を目指す方への
メッセージ

職場体験セミナー

セミナー体験報告

お知らせ

2023.06.13 イベント

【7/14・選考結果のご案内を送信しました】「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023夏」開催のご案内

【7/14追記】本セミナーにお申込みいただいた全ての方に、選考結果のご案内をメールで送信しました。...[続きを読む](#)

2023.05.17 お知らせ

「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023春」体験後アンケート集計結果のご報告

「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023春」の体験後アンケートを集計しました。ご参加...[続きを読む](#)

2023.05.17 お知らせ

「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023春」開催報告のお知らせ

今春、開催しました「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023春」の開催報告を掲載しました...[続きを読む](#)

2023.03.29 お知らせ

「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023春」を予定通り開催いたします！

「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023春」を予定通り開催いたします！ ■ 開催日：...[続きを読む](#)

2023.02.21 お知らせ

選考結果のご案内「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023春」参加者決定のお知らせ

標記セミナーにつきまして、定員の3倍近い多くの方からお申込みいただき、誠にありがとうございました。...[続きを読む](#)

2023.02.17 お知らせ

応募を締め切りました！「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023春」開催のご案内

【本セミナーへの応募を締め切りました。】〔2/14(火)12:00〕定員を大幅に上回る(定員の3倍...[続きを読む](#)

[お知らせ一覧を見る](#)

Facebook



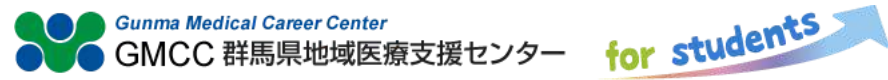
こんにちは。昨日8月8日は立秋でしたね。台風の影響もあり、昨日あたりから群馬県でも雨が降ったり雷が鳴ったりしています。さて、7月24日(月)～8月4日(金)まで、「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2023夏」を開催しました。県内の各医療機関の皆様にご協力いただき、無事に終了することができました。ご協力くださった皆様に心より御礼申し上げます。

4 コメント シェアする





[サイトマップ](#) | [プライバシーポリシー](#) | [SNS運用方](#)



医師をめざす高校生・受験生のあなたへ

copyright © Gunma Medical Career Center. All Rights Reserved.

医学部医学科をめざす 高校生の職場体験セミナー2023夏

日程・おすすめPoint!	主な見学内容
公立藤岡総合病院:7/24(月)午前 定員5名 研修医を体験しよう	・超音波でお腹と心臓を見てみよう ・研修医の生活ってどんな感じ? ・研修医に直接質問(勉強方法など)
公立館林厚生病院:7/25(火)午後 定員3-4名 病院の中を探検してみよう!	・手術室 ・救急センター
長野原町へき地診療所:7/26(水)午後 定員2名 へき地医療の現場を体験できます。現場医師からのミニレクチャーもあります。 ※前橋駅に集合し、バスで移動します!	・外来見学 ・訪問診療同行(可能であれば)
原町赤十字病院:7/26(水)午後 定員6名 医師による院内ガイドツアー ※前橋駅に集合し、バスで移動します!	・地域医療を担う医師との懇談 ・画像見学ツアー (内視鏡室、放射線科の見学)
公立富岡総合病院:7/27(木)午後 定員3名 普段なかなか入れない病院内の見学	・手術室ってどうなってるの? ・検査科ってどんな機器があるの? ・放射線科って何してるの?
SUBARU健康保険組合 太田記念病院:8/1(火)午後 定員10名 医師との懇談、縫合体験・超音波検査体験	・病院紹介 ・病院内見学
西吾妻福祉病院:8/1(火)午後 定員2名 訪問診療同行・院内見学 ※前橋駅に集合し、ジャンボタクシーで移動します!	・訪問診療 ・院内見学
伊勢崎市民病院:8/2(水)午前 定員5名 指導医、研修医と共に医療現場を実体験	・救急センター ・研修医との懇談等
高崎総合医療センター:8/2(水)午後 定員6名 聴診・血圧測定実習、研修医との懇談会	・手術室 ・診療放射線科 ・臨床検査科
桐生厚生総合病院:8/3(木)午前 定員5名 貴重な医療現場体験ができます!	・手洗いチェック体験 ・手術室見学 ・検査科実習
前橋協立病院:8/4(金)午前 定員6名 シミュレーターによる採血体験、検査機器体験、医師とのフリートーク	・検査室 ・放射線室
前橋赤十字病院:8/4(金)午前 定員10名 前橋日赤の深層世界を探訪する!2023	・手術センター ・ドクターヘリ ・研修医との懇談
上野村へき地診療所:8/4(金)午後 定員6名 へき地医療の現場を見学できる ※前橋駅に集合し、バスで移動します!	・院内見学 ・診療所職員との懇談

*対象:群馬県内高等学校在校生、群馬県在住の高校生。定員超過の場合は選考の上決定します。
*開催時間は各病院によって異なりますが、午前は9:30-12:30・午後は13:30-16:00程度を目安としてください。
*COVID-19の感染状況により、急きょ開催方法が変更(中止またはオンライン)になる場合があります。



参加費:無料 ※昼食等の提供はありません。飲み物は各自ご用意ください。

申込締切:令和5年7月5日(水)12時00分まで

<お問合せ先>

群馬大学医学部附属病院 群馬県地域医療支援センター事務局
TEL:027-220-7938/E-mail: chiiki.med@gmcc.jp

↓群馬県地域医療支援センターHP



<お申込み方法>

*右記QRコードからアクセスし、記載事項をご入力いただき、お申し込みください。
*お申込み後すぐに、ご登録いただいたメールアドレスへ自動返信メールを送信します。
メールが届かない場合は、当センターまで必ずお電話でお問合せください。



地域医療体験セミナーin群馬

医学部の実習だけではなかなか体験できない、実際の地域医療の現場を体験するセミナーを夏休みに開催します。

研修医や指導医との懇談を通じて、地域医療を支える医師の役割について学びます。

対 象：群馬大学医学部医学科生（全学年OK）

日程・見学コース	定員	申込締切
8/29(火) カルガモコース：公立館林厚生病院 病院内を探検しよう！	3-4	8/10 (木)
8/30(水) うぐいすコース：公立富岡総合病院&公立七日市病院 *公立富岡総合病院・公立七日市病院(PM)：ここでしか聞けない？富岡総合病院の研修とは 在宅医療支援センター・緩和ケア病棟・血液浄化室	3	8/10 (木)
9/6(水) キジコース：原町赤十字病院 医師による院内ガイドツアー(内視鏡室、放射線室、救急外来 等)	6	8/18 (金)
9/8(金) サルビアコース：桐生厚生総合病院 小さな「いのち」を守り、育てる ～周産期医療～周産期講義、NICU・GCU見学、研修医と懇談	3	8/22 (火)
9/20(水) やまどりコース：長野原町へき プライマリケア実践現場を体験できます	2	9/1 (金)
9/22(金) カエデコース：SUBARU健康保険組合 太田記念病院 3次救急病院での研修医の働き方・研修について 座談会で、研修医が皆さまの疑問に何でもお答えします	10	9/5 (火)
9/27(水) ききょうコース：利根中央病院 YOUは何しに利根中央病院へ？ ～病院の役割や地域について学び、そこで働く研修医に話を聞いてみる～ (※自然豊かな川場村を散策するので動きやすい服装、汗拭きタオル等をご用意ください。) 病院見学&研修医との懇談、地域見学(川場村)	6	9/8 (金)

定員に達したため、お申込みを締め切りました

定員に達したため、お申込みを締め切りました

*群馬大学に集合し、各病院までバス等で移動します。集合・解散時間は日によって異なります。

*天候と時間により、各地域を散策する予定です。

*お申込みは先着順です。事前に群馬県地域医療支援センターHPで申込状況をご確認の上、お申込みください。

*COVID-19等の感染状況により、急きょ、開催方法が変更(中止またはオンライン開催)となる可能性があります。



参加費は無料です。別途、食費(昼食)・諸経費が掛かります。

【お申込み・お問合せ先】

群馬大学医学部附属病院 群馬県地域医療支援センター事務局

TEL：027-220-7938/E-mail：chiiki.med@gmcc.jp

*右記QRコードからアクセスし、記載事項をご確認いただいた上でお申込みください。

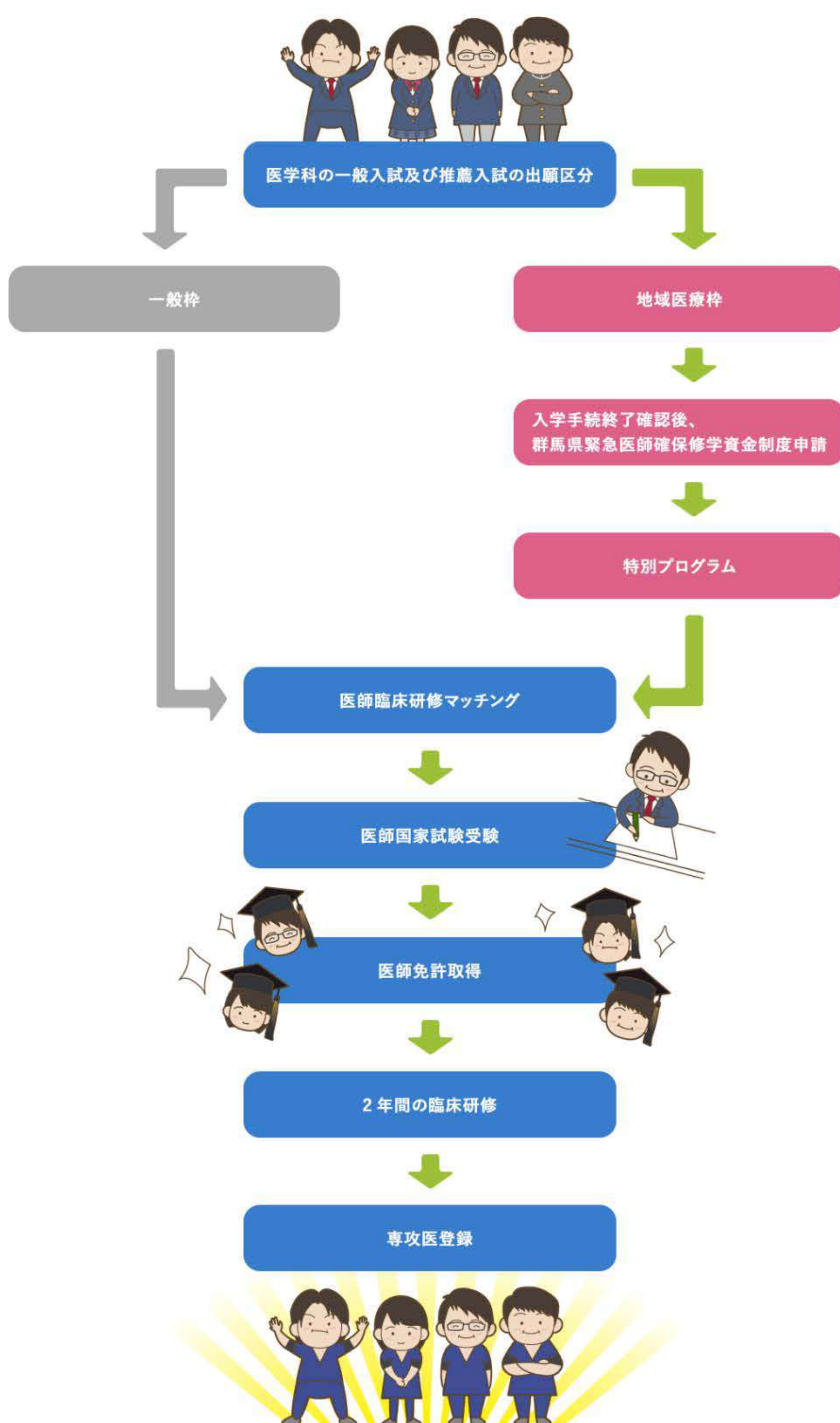
*お申込み後すぐにご登録いただいたメールアドレス宛にメールが届きます。

メールが届かない場合は、当センターまで必ずお電話でお問合せください。

↓群馬県地域医療支援センターHP



地域医療枠制度



群馬県緊急医師確保修学資金制度と地域医療枠学生について

ぐんまの地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、群馬大学医学部医学科に地域医療枠として進学する学生に対し、群馬県では修学資金を貸与しています。指定の要件をすべて満たした場合に、修学資金の返還が免除されます。地域医療枠学生は、課外活動として地域医療支援センターが実施する地域医療に関する特別プログラムに参加し、群馬県の医療や福祉について学びます。卒業後の2年間は、一般枠の学生と同様に県内の臨床研修病院で初期臨床研修に従事します。初期臨床研修修了後は、県内の専門研修プログラムに登録し、専攻医として診療業務に従事します。地域医療支援センターでは、「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」により卒業後のキャリア形成についても支援しています。

[▶ 詳細はこちら](#)

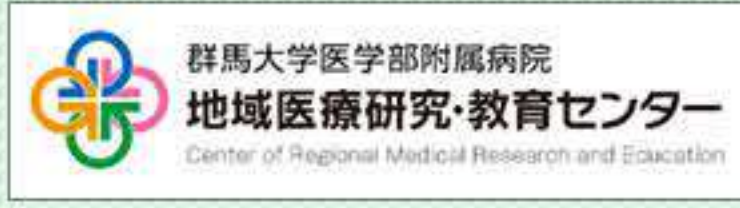
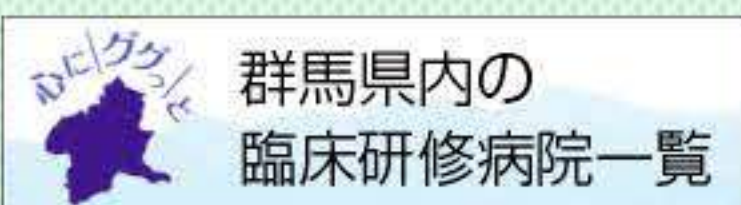
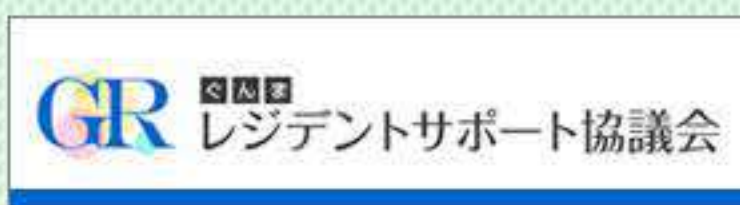
多くの地域医療枠卒業生が活躍しています

地域医療枠卒業医師（専攻医）診療科（2021年11月現在）

内科	20名
外科	6名
皮膚科	1名
産婦人科	1名
耳鼻咽喉科	1名
脳神経外科	1名
麻酔科	9名
小児科	2名
精神科	1名
整形外科	3名
眼科	3名
泌尿器科	4名
放射線科	4名
救急科	4名
リハビリテーション科	1名
総合診療科	3名
未定	1名

地域医療枠卒業医師（専攻医）勤務先（2021年11月現在）

【中毛地区】	
群馬大学医学部附属病院	27名
前橋赤十字病院	3名
済生会前橋病院	1名
群馬中央病院	1名
伊勢崎市市民病院	5名
県立心臓血管センター	1名
【西毛地区】	
高崎総合医療センター	9名
公立藤岡総合病院	2名
公立富岡総合病院	2名
【北毛地区】	
渋川医療センター	1名
利根中央病院	3名
県立小児医療センター	1名
【東毛地区】	
桐生厚生総合病院	1名
恵愛堂病院	1名
公立館林厚生病院	1名
太田記念病院	2名
【県外】	
理化学研究所	1名
QST病院	1名
足利赤十字病院	1名
済生会宇都宮病院	1名



はじめて学ぶ地域医療～かしこく健康に生きる～

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB1354	LB-1-HS0016-J	【教養教育】健康科学科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
小和瀬 桂子 [Kowase Keiko], 佐藤 浩子 [Satoh Hiroko], 堀口 昇男 [Horiguchi Norio], 羽鳥 麗子, 岸 美紀子 [Kishi Mikiko], 大嶋 清宏 [Ohshima Kiyohiro], 浜崎 景 [Hamazaki, Kei], 滝沢 琢己 [Takizawa Takumi], 田村 遵一 [Tamura, junichi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけることを通して、将来地域・社会で役に立つ人材になるための素養を育む。

■ ■ 授業の到達目標

- ・地域医療の基礎的知識を理解し、説明することができる。
- ・グループで協働して課題に取り組むことができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B：論理的・創造的思考力 ○
 C：コミュニケーション能力 ○
 D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

- ・医師不足地域である群馬県と埼玉県の間境地域を題材として、地域医療の現状について学習することを目的とする。
- ・すべて実務経験のある教員による授業であり、各専門分野で実際に地域医療を行っている教員がオムニバス形式の講義を行う。特に、群馬県と埼玉県の地域医療で求められている総合診療、救急医療、感染症、周産期・小児医療、癌診療、高齢者医療等を中心的に扱う。また、医療機関、保健行政等を含めた地域連携についても学ぶ。
- ・両県について住民の視点に立ち「地域を知る」学習・討論を行い、地域医療における課題を受講生自らが抽出し、主体的に学習する機会を設ける。多様な視点からの考えを学生同士で共有し、学習・討論を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義
 演習（地域診断についてのグループワークと発表）
 オンラインを用いて埼玉医科大学との共同講義と演習を行う。

■ ■ 授業スケジュール

日程 内容 担当教員
 第1回 4月12日 オリエンテーション、地域医療とは、健康とは、地域診断入門 小和瀬
 第2回 4月19日 群馬県の地域保健 浜崎
 第3回 4月26日 群馬県の救急医療 大嶋
 第4回 5月10日 群馬県の肝疾患事業、アルコール依存防止の取り組み 堀口
 第5回 5月17日 群馬県の地域医療構想など地域医療の現状 羽鳥・小和瀬
 第6回 5月24日 かしこく健康に生きる（埼玉医大と合同講義） 田村遵一 元群馬大学附属病院病院長
 第7回 5月31日 ヒューマンケアを基盤とした人の暮らしを支える専門職連携（埼玉医大と合同講義） 柴崎（埼玉医大）
 第8回 6月7日 群馬県の周産期医療 滝沢
 第9回 6月14日 発表準備（グループワーク） 小和瀬、他
 第10回 6月21日 発表準備（グループワーク） 小和瀬、他
 第11回 6月28日 発表（埼玉医大と合同） 柴崎（埼玉医大）、小和瀬、他
 第12回 7月5日 発表（埼玉医大と合同） 柴崎（埼玉医大）、小和瀬、他
 第13回 7月12日 地域医療と感染症 徳江
 第14回 7月19日 健康保険、介護保険、地域包括ケアシステムについて 廣田
 第15回 7月26日 まとめ 小和瀬

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
 実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

日頃から地域医療に関するニュースに触れるようにする。
 グループワークを円滑に進めるための資料収集を行う。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

課題と小テスト（50%） A
 プレゼンテーション（40%） B・C
 授業に臨む態度・グループ活動への貢献度（10%） C・D

■ ■ 受講条件（履修資格）

メッセージ

地域医療は医療従事者だけではなく、住民・行政・その地域で働く人など、多くの人が担うものです。この講座は実際にその分野で活躍している教員が講義し、それを基にみんなで地域を考えていくことを目的としております。さらに、埼玉医大と共同開講することにより、地域の多様性についても学びます。医学科、保健学科はもちろん、共同教育学部、情報学部、理工学部のみなさんも大いに歓迎いたします。

キーワード

地域医療
地域社会
健康
アクティブラーニング
実務経験
準メディア授業

この授業の基礎となる科目

次に履修が望まれる科目

関連授業科目

教科書

教科書1	ISBN	9784787823847				
	書名	地域医療学入門				
	著者名	日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会監修	出版社	診断と治療社	出版年	2019
	備考					
教科書2	ISBN	9784524231560				
	書名	シンプル衛生公衆衛生学2022				
	著者名	鈴木庄亮	出版社	南江堂	出版年	2022
	備考					
教科書3	ISBN	9784623085538				
	書名	保健・医療・福祉のための 専門職連携教育プログラム 地域包括ケアを担うためのヒント				
	著者名	柴崎 智美 編著 米岡 裕美 編著 古屋 牧子 編著	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	2019
	備考					

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

授業言語

県境地域から学ぶ地域医療集中演習

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB9001	MB-3-CS9001-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
羽鳥 麗子		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次 ～ 6年次	2

■ ■ 授業の目的

地域住民の医療に対するニーズを把握し、地域医療が抱える課題を探究する素養を身につけるため、群馬・埼玉県境地域の地理的状況や医療圏について早期から学ぶとともに、医療現場で実習を通して、地域医療における多職種連携について理解を深める。

■ ■ 授業の到達目標

1. 群馬・埼玉県境の地理的状況や医療圏について、基本的な知識を身につける。(医B4、医F1、医F2)
2. 地域医療が抱える課題について、自主的に調査することができる。(医F1、医F4、医H3)
3. 礼節（服装、態度、言葉遣い、時間厳守等）をわきまえた上で、実習に参加できる。(医C1)
4. チーム内で意見を交換することの重要性を理解する。(医D4、医D5)
5. 医療従事者と双方向に意見交換ができる。(医D3)
6. 調査や実習について適切に要約し、発表することができる。(医B4、医B5、医G1、医G5)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 △
 B：論理的・創造的思考力 ○
 C：コミュニケーション能力（医C） ◎
 D：社会的倫理観・国際性 △
 E：自己省察力（医A） ○
 F：知識の獲得と知識を応用する力（医B） △
 G：チーム医療の中で協働する力（医D） ◎
 H：基本的な総合診療能力（医E） △
 I：地域医療の向上に貢献する能力（医F） ◎
 J：医学研究を遂行する能力（医G） △
 K：自己研鑽（医H） ○

■ ■ 授業概要

- ・医師不足地域である群馬・埼玉の県境地域を題材に、ポストコロナ時代に必要とされる高度医療の浸透や地域構造の変化に対応できる素養を修得することを目的とします。
- ・実務経験のある教員が講義、実習を担当し、「早くから学ぶ・地域で学ぶ」ことを大切にしています。
- ・小児科、産婦人科、救急医療、総合診療などの地域ニーズの高い診療科領域に触れ、住民の視点から当該領域への関心や理解を高めます。
- ・地域医療に関する諸問題について受講者自らが課題を考え、主体的に学び、医療を取り巻く環境変化に対応した資質を身につけます。
- ・リアルタイム型オンライン授業にて、埼玉医科大学の地域枠学生とともにそれぞれの視点から討論を行う機会を設けています。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

- ・オンデマンド型オンライン授業や映像教材による事前学習や臨地実習前学習をします。
- ・医師不足地域での臨地実習（バスツアー及び個別実習）を行います。
- ・臨地実習後、少人数でのグループ討論と発表を行います。

■ ■ 授業スケジュール

夏休みおよび春休みを利用し、臨地実習病院や近隣地域を理解するためのバスツアー（1回以上）に参加する。また、地域における病院の機能や役割を知るため、臨地実習病院にて実習（1回以上）を行う。臨地実習前に担当教員（羽鳥麗子、錦戸彩加、荒木祐樹、柴崎智美（埼玉医大）、林健（埼玉医大））が準備した資料や映像等を用いて、事前学習を行う。臨地実習後の振り返りとして、埼玉医大との合同発表を行う。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

日頃から地域や地域医療に関する話題に関心を向ける。

臨地実習の参加と実習後の合同発表に向け、県境地域と医療情勢等の課題について、各自で事前学習を行う。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

- ①プレゼンテーション（40%）B・C・F・G
- ②実習の態度（30%）D・H
- ③提出課題・レポート（30%）B・F

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科1～6年生で、バスツアー、実習、事前学習および事後の振り返りの全てを履修できる者

■ ■ メッセージ

学則変更の趣旨 - 41

群馬と埼玉の県境地域で活躍する医師には、「地域を良く理解する」、「地域への愛着を持つ」、「課題の発見と解決に対する意欲を持つ」という3つの素養が求められます。地域医療を支える医師やメディカルスタッフとの出会いから、医師としての将来の自分を描きつつ、地域医療の魅力を学んでください。臨地実習として、公立館林厚生病院、伊勢崎市民病院、桐生厚生総合病院、太田記念病院、公立藤岡総合病院、公立富岡総合病院の6つの医療機関に御協力いただきます。

キーワード

地域医療
健康
アクティブラーニング
準メディア授業
実務経験

この授業の基礎となる科目

次に履修が望まれる科目

関連授業科目

教科書

教科書1	ISBN	9784787823847				
	書名	地域医療学入門				
	著者名	日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会監修	出版社	診断と治療社	出版年	2019
	備考					

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1107>

授業言語

医系の人間学 1 A

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB1014	MB-1-HS1011-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
茂木 精一郎 [Motegi Seichiroh], 鯉淵 典之 [Koibuchi Noriyuki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次 ~ 2年次	3

■ ■ 授業の目的

医系の人間学 1 A～医療プロフェッショナリズム 入門編～では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心を向け、異なる価値観・考えに耳を傾け、理解しようと努め、心情を想像する力を養う。医療の質と安全、多職種連携の基礎的事項についても学ぶ。また、他者の個別の状況やニーズを汲み柔軟に対応するための基礎を学び、医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

- 人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(医B4, 医B5, 医C3)
- 相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のあり方やニーズを推測することができる。(医A5, 医C5, 医C6)
- さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につける。(医C2, 医C4, 医D2)
- 医療の質と安全や多職種連携に関する基本的な知識を身につける。(医B4, 医C2)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
 B：論理的・創造的思考力
 C：コミュニケーション能力（医C）◎
 D：社会的倫理観・国際性
 E：自己省察力（医A）◎
 F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）◎
 G：チーム医療の中で協働する力（医D）○
 H：基本的な総合診療能力（医E）
 I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）
 J：医学研究を遂行する能力（医G）
 K：自己研鑽（医H）

■ ■ 授業概要

保健学科と合同で全人的医療（患者の心理や社会的側面などを幅広く考慮しながら、個々に合った総合的な予防・診断・治療を行う医療）の基礎を学びます。また、各回のテーマに基づき他者の心構えについて討論や演習で学びます。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義：保健学科との合同講義を含みます。
 演習：少人数での課題提示とグループ討論、発表、教員による解説を組み合わせで行います。また、インプロやロールプレイの手法を用いる回もあります。
 実習：附属病院において、病院スタッフの協力のもと、院内各部署で実習します。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 4月10日 齊藤繁：総合病院における全人的医療、
福田正人：自分自身のユースメンタルヘルス
- 第2回 4月17日 内海隆雄、松崎利行、他：インプロ
- 第3回 4月24日 木村孝穂：医療従事者に必要な感染対策～テーマパークのアウトブレイク事例に学ぶ～、
岸美紀子：大学で学ぶということ
- 第4回 5月1日 田中和美：全人的医療と医療安全、
本田美和子、伊東美緒：ユマニチュード
- 第5回 5月8日 篠崎博光、河村恵美：チーム医療と患者の世界、
岸美紀子：大学で学ぶということ
- 第6回 5月15日 坂本浩之助：ハンセン病から学ぶ全人的医療、
茂木精一郎、田中和美：振り返り
- 第7回 5月22日 林はるみ：ドキュメンタリーから学ぶ
- 第8回 5月29日 林はるみ：家族のかたち
- 第9回 6月5日 伊東美緒：ユマニチュード
- 第10回 6月12日 田中和美：ヒューマンエラー
- 第11回 6月19日 田中和美、茂木精一郎：病院で働くということ
- 第12回 6月26日 小池一馬：病院で働くということ

第13回 7月 3日 岸美紀子、田中和美：病院で働くということ

第14回 7月10日 岸美紀子、田中和美：病院で働くということ

第15回 7月24日 岸美紀子、田中和美：病院で働くということ（病棟実習）

授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事前に配布する課題がある場合は、各自で事前学習を行い、十分な準備をした上で講義に臨むこと。また復習として授業中に生じた疑問の解消に努めること。

成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

課題レポート（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

授業に臨む態度（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

期末レポート（40%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

なお、アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

受講条件（履修資格）

医学部医学科1年生

メッセージ

- 1 活発な議論を通じ、授業を楽しんでくれることを期待しています。
- 2 課題レポートの内容が不十分であると思われた学生にはフィードバックにより注意をします。
- 3 アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

アンプロフェッショナルな行動の4I分類

- 1 Involvement（授業への参加）
 - 1) 割り当てられた活動に欠席または遅刻する
 - 2) 締め切りを守らない
 - 3) 主体性がない
 - 4) 全般的な乱れ
 - 5) 手抜きをする
 - 6) チームワークの欠如
 - 7) 不適切な発言
- 2 Integrity（誠実さ）
 - 1) 試験での不正行為
 - 2) 嘘をつくこと
 - 3) 盗用
 - 4) データの捏造
 - 5) データの改竄
 - 6) 詐称
 - 7) 必要な同意を得ずに行動すること
 - 8) 規則の不遵守
- 3 Interaction（相互関係）
 - 1) 拙い言語的／非言語的コミュニケーション
 - 2) ソーシャルメディアの不適切な使用
 - 3) 適切でない服装
 - 4) 教育現場での迷惑行為
 - 5) プライバシーおよび守秘義務の侵害
 - 6) いじめ
 - 7) 差別的行為
 - 8) セクシャルハラスメント
- 4 Introspection（内省）
 - 1) フィードバックを避ける
 - 2) 自分の行動に対する洞察力がない
 - 3) 他者のニーズに敏感でない
 - 4) 自分の不備ではなく、外的要因を責める。
 - 5) フィードバックを受け入れない
 - 6) 変化を拒む
 - 7) 自分の限界に気づかない

キーワード

アクティブラーニング、実務経験、準メディア授業

この授業の基礎となる科目

次に履修が望まれる科目

医系の人間学1B

関連授業科目

医の倫理学

教科書

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1040>

授業言語

医系の人間学 1 B

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB1015	MB-1-HS1012-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
茂木 精一郎 [Motegi Seichiroh], 鯉淵 典之 [Koibuchi Noriyuki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次 ~ 1年次	3

■ ■ 授業の目的

医系の人間学 1 B～医療プロフェッショナリズム 入門編～では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心を向け、異なる価値観・考えに耳を傾け、理解しようと努め、心情を想像する力を養う。医療の質と安全、多職種連携の基礎的事項についても学ぶ。また、他者の個別の状況やニーズを汲み柔軟に対応するための基礎を学び、医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

- 1 人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(医B4, 医B5, 医C3)
- 2 相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。(医A5, 医C5, 医C6)
- 3 さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につける。(医C2, 医C4, 医D2)
4. 医療の質と安全や多職種連携に関する基本的な知識を身につける。(医B4, 医C2)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
 B：論理的・創造的思考力
 C：コミュニケーション能力（医C）◎
 D：社会的倫理観・国際性
 E：自己省察力（医A）◎
 F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）◎
 G：チーム医療の中で協働する力（医D）○
 H：基本的な総合診療能力（医E）
 I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）
 J：医学研究を遂行する能力（医G）
 K：自己研鑽（医H）

■ ■ 授業概要

グループ討論を中心に授業を行い、医療安全や、医療現場に必ずしも限らない現場の人々の心情理解を図ります。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義：演習で必要となる医学知識については適宜講義を行います。
 演習：少人数での課題提示とグループ討論、発表、教員による解説を組み合わせで行います。また、インプロ(即興演劇)やロールプレイの手法を用いる回もあります。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 10月6日 事務・医療企業からみた医師像 田中利樹
 第2回 10月13日 インプロ 高尾隆、松崎利行
 第3回 10月20日 インプロ 高尾隆、松崎利行
 第4回 10月27日 業務フロー・システム思考 久保田裕
 第5回 11月10日 環境リスク・コミュニケーション1 浜崎景
 第6回 11月17日 環境リスク・コミュニケーション2 鯉淵典之、藤原悠基
 第7回 11月24日 環境リスク・コミュニケーション3 鯉淵典之、藤原悠基
 第8回 12月1日 生活と社会 非常勤講師
 第9回 12月8日 生活と社会 非常勤講師
 第10回 12月15日 医療系学生に必要な感染対策 岸美紀子
 第11回 12月22日 生活と社会 非常勤講師
 第12回 1月5日 生活と社会 非常勤講師
 第13回 1月12日 生活と社会 非常勤講師
 第14回 1月19日 生活と社会 非常勤講師
 第15回 1月26日 まとめ 茂木精一郎、岸美紀子

※内容は変更になることがあります。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

少人数グループ討議を中心としたケーススタディを行なうため、事前に配布する課題がある場合は、各自で事前学習を行い、十分な準備をした上で授業に臨むこと。また授業中の課題は期末レポートの題材となるため、しっかりと復習しておくこと。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

課題レポート（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

授業に臨む態度（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

期末レポート (40%) : 到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

なお、アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

■ 受講条件 (履修資格)

医学部医学科 1 年生

■ メッセージ

- 1 活発な議論を通じ、授業を楽しんでくれることを期待しています。
- 2 課題レポートの内容が不十分であると思われた学生にはフィードバックにより注意をします。
- 3 アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

アンプロフェッショナルな行動の4I分類

- 1 Involvement (授業への参加)
 - 1) 割り当てられた活動に欠席または遅刻する
 - 2) 締め切りを守らない
 - 3) 主体性がない
 - 4) 全般的な乱れ
 - 5) 手抜きをする
 - 6) チームワークの欠如
 - 7) 不適切な発言
- 2 Integrity (誠実さ)
 - 1) 試験での不正行為
 - 2) 嘘をつくこと
 - 3) 盗用
 - 4) データの捏造
 - 5) データの改竄
 - 6) 詐称
 - 7) 必要な同意を得ずに行動すること
 - 8) 規則の不遵守
- 3 Interaction (相互関係)
 - 1) 拙い言語的 / 非言語的コミュニケーション
 - 2) ソーシャルメディアの不適切な使用
 - 3) 適切でない服装
 - 4) 教育現場での迷惑行為
 - 5) プライバシーおよび守秘義務の侵害
 - 6) いじめ
 - 7) 差別的行為
 - 8) セクシャルハラスメント
- 4 Introspection (内省)
 - 1) フィードバックを避ける
 - 2) 自分の行動に対する洞察力がない
 - 3) 他者のニーズに敏感でない
 - 4) 自分の不備ではなく、外的要因を責める。
 - 5) フィードバックを受け入れない
 - 6) 変化を拒む
 - 7) 自分の限界に気づかない

■ キーワード

アクティブラーニング, 実務経験, 準メディア授業

■ この授業の基礎となる科目

医系の人間学1A

■ 次に履修が望まれる科目

医系の人間学2A

■ 関連授業科目

医の倫理学

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

医系の人間学 2 A

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB2003	MB-2-HS2003-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
鯉淵 典之 [Koibuchi Noriyuki], 茂木 精一郎 [Motegi Seichiroh]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ~ 2年次	3

■ ■ 授業の目的

医系の人間学 2 A～医療プロフェッショナルリズム 応用編～では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心を向け、異なる価値観・考えに耳を傾け、理解しようと努め、心情を想像する力を養う。また、医療の質と安全、多職種連携についても学ぶ。さらに、他者の個別の状況やニーズを汲み、他者の立場に立って心情を理解し、適切な対応を取ることができるようになるためのコミュニケーション能力を養う。そして医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

- 1 人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(医B4, 医B5, 医C3)
- 2 相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。(医A5, 医C5, 医C6)
- 3 さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につけ、わかりやすく適切な言葉を用いてコミュニケーションを図ることができる。(医C2, 医C4, 医C5, 医D2)
4. 医療の質と安全や多職種連携に関する基本的な知識を身につける。(医B4, 医C2)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解
 B : 論理的・創造的思考力
 C : コミュニケーション能力 (医C) ◎
 D : 社会的倫理観・国際性
 E : 自己省察力 (医A) ◎
 F : 知識の獲得と知識を応用する力 (医B) ◎
 G : チーム医療の中で協働する力 (医D) ○
 H : 基本的な総合診療能力 (医E)
 I : 地域医療の向上に貢献する能力 (医F)
 J : 医学研究を遂行する能力 (医G)
 K : 自己研鑽 (医H)

■ ■ 授業概要

グループ討論を中心に授業を行い、医療安全や、医療・介護の現場を中心とした、異なる立場の人々の心情理解を図ります。また、夏季のチーム医療実習も踏まえて、学期の終わりにはロールプレイ演習を行い、異なる立場の人々の心情理解の深化を図ると共にコミュニケーション能力を養います。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義：演習で必要となる医学知識については適宜講義を行います。
 演習：少人数での課題提示とグループ討論、発表、教員による解説を組み合わせで行います。ロールプレイの手法を用いる回もあります。

■ ■ 授業スケジュール

1	4/14(金)	オリエンテーション	鯉淵典之
2	4/21(金)	(医療の質と安全)医療安全	小松康宏
3	4/28(金)	家族のあり方1	秦健一郎
4	5/12(金)	家族のあり方2	前田泰
5	5/19(金)	医療系学生に必要な感染対策	岸美紀子
6	5/26(金)	ドキュメンタリーから学ぶ	南嶋洋司
7	6/2(金)	アンコンシャスバイアス	林はるみ
8	6/9(金)	振り返りとフィードバック	鯉淵典之
9	6/16(金)	家族のあり方3	前田泰
10	6/23(金)	医療の質と安全 (4年生との合同講義)	田中和美
11	6/30(金)	医療法学(講義)	前田泰
12	7/7(金)	家族のあり方4	澤田悠輔
13	7/14(金)	医療の質と安全 (4年生との合同講義)	田中和美
14	7/21(金)	家族のあり方5	鯉淵典之
15	7/28(金)	まとめ	鯉淵典之

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
 実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

少人数グループ討論を中心としたケーススタディを行なうため、事前に配布する課題がある場合は、各自で事前学習を行い、十分な準備をした上で授業に臨むこと。また授業中の課題は期末レポートの題材となるため、しっかりと復習しておくこと。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

学則変更の趣旨 - 49

課題レポート（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

授業に臨む態度（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

期末レポート（40%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

なお、アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

■ 受講条件（履修資格）

医学部医学科2年生

■ メッセージ

- 1 活発な議論を通じ、授業を楽しんでくれることを期待しています。
- 2 課題レポートの内容が不十分であると思われた学生にはフィードバックにより注意をします。
- 3 アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

アンプロフェッショナルな行動の4I分類

- 1 Involvement (授業への参加)
 - 1) 割り当てられた活動に欠席または遅刻する
 - 2) 締め切りを守らない
 - 3) 主体性がない
 - 4) 全般的な乱れ
 - 5) 手抜きをする
 - 6) チームワークの欠如
 - 7) 不適切な発言
- 2 Integrity (誠実さ)
 - 1) 試験での不正行為
 - 2) 嘘をつくこと
 - 3) 盗用
 - 4) データの捏造
 - 5) データの改竄
 - 6) 詐称
 - 7) 必要な同意を得ずに行動すること
 - 8) 規則の不遵守
- 3 Interaction (相互関係)
 - 1) 拙い言語的／非言語的コミュニケーション
 - 2) ソーシャルメディアの不適切な使用
 - 3) 適切でない服装
 - 4) 教育現場での迷惑行為
 - 5) プライバシーおよび守秘義務の侵害
 - 6) いじめ
 - 7) 差別的行為
 - 8) セクシャルハラスメント
- 4 Introspection (内省)
 - 1) フィードバックを避ける
 - 2) 自分の行動に対する洞察力がない
 - 3) 他者のニーズに敏感でない
 - 4) 自分の不備ではなく、外的要因を責める。
 - 5) フィードバックを受け入れない
 - 6) 変化を拒む
 - 7) 自分の限界に気づかない

■ キーワード

アクティブラーニング, 実務経験, 準メディア授業

■ この授業の基礎となる科目

医の倫理学
医系の人間学1B

■ 次に履修が望まれる科目

医系の人間学2B

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

医系の人間学 2 B

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB2004	MB-2-HS2004-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
鯉淵 典之 [Koibuchi Noriyuki], 茂木 精一郎 [Motegi Seichiroh]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ~ 2年次	3

■ ■ 授業の目的

医系の人間学 2B～医療プロフェッショナルリズム 応用編～では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心を向け、異なる価値観・考えに耳を傾け、理解しようと努め、心情を想像する力を養う。また、医療の質と安全、多職種連携についても学ぶ。さらに、他者の個別の状況やニーズを汲み、他者の立場に立って心情を理解し、適切な対応を取ることができるようになるためのコミュニケーション能力を養う。そして医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

- 1 人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(医B4, 医B5, 医C3)
- 2 相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。(医A5, 医C5, 医C6)
- 3 さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につけ、わかりやすく適切な言葉を用いてコミュニケーションを図ることができる。(医C2, 医C4, 医C5, 医D2)
- 4 医療の質と安全や多職種連携に関する基本的な知識を身につける。(医B4, 医C2)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解
 B : 論理的・創造的思考力
 C : コミュニケーション能力 (医C) ◎
 D : 社会的倫理観・国際性
 E : 自己省察力 (医A) ◎
 F : 知識の獲得と知識を応用する力 (医B) ◎
 G : チーム医療の中で協働する力 (医D) ○
 H : 基本的な総合診療能力 (医E)
 I : 地域医療の向上に貢献する能力 (医F)
 J : 医学研究を遂行する能力 (医G)
 K : 自己研鑽 (医H)

■ ■ 授業概要

グループ討論を中心に授業を行い、医療安全や、医療・介護の現場を中心とした、異なる立場の人々の心情理解を図ります。また、夏季のチーム医療実習も踏まえて、学期の終わりにはロールプレイ演習を行い、異なる立場の人々の心情理解の深化を図ると共にコミュニケーション能力を養います。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義：演習で必要となる医学知識については適宜講義を行います。
 演習：少人数での課題提示とグループ討論、発表、教員による解説を組み合わせで行います。インプロやロールプレイの手法を用いる回もあります。

■ ■ 授業スケジュール

1	10/ 6(金)	ユマニチュード（老健実習振り返り）	伊東美緒
2	10/13(金)	(医療の質と安全)医療メデイエーション	荒神裕之
3	10/20(金)	(医療の質と安全)コンフリクト・交渉	田中利樹
4	10/27(金)	インプロ	高尾隆(東工大), 松崎利行
5	11/10(金)	インプロ	高尾隆(東工大), 松崎利行
6	11/17(金)	環境リスク・コミュニケーション (1年生との合同授業)	鯉淵典之, 藤原悠基
7	11/24(金)	ダイバーシティを考える1	高井ゆと里
8	12/ 1(金)	(医療の質と安全)メディア・リテラシー	久保田裕
9	12/ 8(金)	ダイバーシティを考える2	林はるみ
10	12/15(金)	死について考える1	小湊慶彦, 佐野利恵
11	12/22(金)	2B前半の授業振り返りとフィードバック	鯉淵典之
12	1/ 5(金)	人を支援する	福田正人
13	1/12(金)	ダイバーシティを考える3	前田泰
14	1/19(金)	死について考える2	鯉淵典之
15	1/26(金)	人間学2年次 まとめ	鯉淵典之

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

少人数グループ討議を中心としたケーススタディを行なうため、事前に配布する課題がある場合は、各自で事前学習を行い、十分な準備をした上で授業に臨むこと。また授業中の課題は期末レポートの題材となるため、しっかりと復習しておくこと。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

課題レポート（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

授業に臨む態度（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

受講条件 (履修資格)

医学部医学科2年生

メッセージ

- 1 活発な議論を通じ、授業を楽しんでくれることを期待しています。
- 2 課題レポートの内容が不十分であると思われる学生にはフィードバックにより注意をします。
- 3 アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

アンプロフェッショナルな行動の4I分類

- 1 Involvement (授業への参加)
 - 1) 割り当てられた活動に欠席または遅刻する
 - 2) 締め切りを守らない
 - 3) 主体性がない
 - 4) 全般的な乱れ
 - 5) 手抜きをする
 - 6) チームワークの欠如
 - 7) 不適切な発言
- 2 Integrity (誠実さ)
 - 1) 試験での不正行為
 - 2) 嘘をつくこと
 - 3) 盗用
 - 4) データの捏造
 - 5) データの改竄
 - 6) 詐称
 - 7) 必要な同意を得ずに行動すること
 - 8) 規則の不遵守
- 3 Interaction (相互関係)
 - 1) 拙い言語的/非言語的コミュニケーション
 - 2) ソーシャルメディアの不適切な使用
 - 3) 適切でない服装
 - 4) 教育現場での迷惑行為
 - 5) プライバシーおよび守秘義務の侵害
 - 6) いじめ
 - 7) 差別的行為
 - 8) セクシャルハラスメント
- 4 Introspection (内省)
 - 1) フィードバックを避ける
 - 2) 自分の行動に対する洞察がない
 - 3) 他者のニーズに敏感でない
 - 4) 自分の不備ではなく、外的要因を責める。
 - 5) フィードバックを受け入れない
 - 6) 変化を拒む
 - 7) 自分の限界に気づかない

キーワード

アクティブラーニング, 実務経験, 準メディア授業

この授業の基礎となる科目

医の倫理学
医系の人間学2A

次に履修が望まれる科目

医系の人間学3A

関連授業科目

教科書

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

チーム医療実習

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB2018	MB-2-CT2018-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
和田 直樹 [Naoki Wada], 喜名 振一郎 [Shinichiroh Kina]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ~ 2年次	2

■ ■ 授業の目的

医療は、医師だけでなく、看護師、臨床検査技師、療法士、医療事務職などの様々な職種のスタッフにより支えられている。本実習では、1年次の医学医療概論（病棟実習）から一步踏み出し、各施設における看護・介護行為等を指導者の指示に従いつつ、主体的かつ能動的に実践する。コミュニケーション能力やチーム医療の中で協働する力の基礎を学び、保健・医療・福祉・介護に係る制度を理解することを旨とする。

実習前講義をすべて受講した者だけが、施設実習を行います。

■ ■ 授業の到達目標

医療現場の息吹を学び、医師としてあるべき姿勢を学ぶ。

- こまやかな心遣いをもって他者に接しているかをふりかえる姿勢を持つ。（医A5）
- 礼節（挨拶、服装、態度、言葉遣い、時間厳守等）をわかまえる（医C1）
- 患者・家族、医療スタッフとの円滑な意思疎通と、信頼関係の構築に努めることができる。（医C2）
- 専門職連携を行なうことができる。（医D1）
- 患者・家族や医療スタッフとの日々の対話を通して、患者に対する理解を深めるよう努めることができる。（医D2）
- 必要に応じて慣行や常識に疑問を呈し、チームの中での話し合いを提案できる。（医D4）
- 地域医療の現状および課題を理解する。（医F1）
- 保健・医療・福祉・介護に関わる制度を理解し、諸機関と連携・協力する。（医F4）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解-
 B：論理的・創造的思考力△
 C：コミュニケーション能力（医C）◎
 D：社会的倫理観・国際性◎
 E：自己省察力（医A）◎
 F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）△
 G：チーム医療の中で協働する力（医D）◎
 H：基本的な総合診療能力（医E）○
 I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）◎
 J：医学研究を遂行する能力（医G）-
 K：自己研鑽（医H）◎

■ ■ 授業概要

地域包括ケアを含め現在の福祉と介護のチーム連携を演習と講義で学び、介護老人保健施設、介護老人福祉施設等で臨地実習を行います。

実習前講義をすべて受講した者だけが、施設実習を行います。講義後レポート課題と実習での目標設定を行います。

認知サポーター研修も含まれます。研修終了後に修了カードを配布します。。

- * 1：認知症サポーター研修。厚労省HP (<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089508.html>)、前橋市HP (<http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/42/104/105/p002004.html>) 参照。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

令和5年度は実習前講義は全て対面講義を予定しています。臨地実習については、感染の状況をみながら可能な限り施設での実習を行う方針です。講義・実習内容は施設との調整で今後変更になる可能性があります。

2023年8月28日（月）から9月15日（金）

8月28日（月）から9月1日（金）：実習前講義（対面講義）

9月4日（月）から9月15日（金）：実習（対面実習orオンライン実習）

10月 実習報告会（未定。決定次第連絡します）

■ ■ 授業スケジュール

講義内容に関しては、変更する場合がありますので適宜Moodleにて確認のこと。

8月28日(月)

8:50-12:00

老人保健施設・制度について（医療法人大誠会 田中志子）

13:00-16:30

実習の概要説明、臨地実習に当たっての注意点

8月29日(火)

8:50-10:20

介護施設等におけるハラスメント等への対応（NPO法人じゃんけんぼん 佐藤文美）

10:30-12:00

オリエンテーション 実習の概要説明 現場での実習に臨むにあたって 身だしなみ、行動

臨地実習に当たっての注意点 実習目標設定・質問作成

14:40-16:10

学則変更の趣旨 - 55

8月30日(水)

8:50-10:20

接遇研修(看護部)

10:30-12:00

群馬大学の多職種連携教育の取り組み(保健学科 篠崎博光)

13:00-14:30

施設における高齢者介護(看護)の実際(保健学研究科 内田陽子)

14:40-16:10

高齢者や認知症をもつ人へのコミュニケーション(保健学研究科 伊東美緒)

8月31日(木) 8:50-12:00

認知症サポーター研修(基礎大講堂、基礎中講堂)(対面)(前橋市長寿包括ケア課 荒木様他)

本サポーター研修は遅刻、早退すると研修修了と認められません。

13:00-16:30

医療のコミュニケーションと信頼

マイインフォームドコンセント

佐伯晴子 代表

9月2日(金)

8:50-12:00

班ごとのグループワーク

医療安全(医療の質と安全学 小松康宏)

13:00-14:30

実習協力施設の紹介

14:30-16:10

地域包括ケアと老健(群馬県老人保健施設協会理事長 服部徳昭)

9月4日(月) 第6回 施設実習 or オンライン実習

9月5日(火) 第7回 施設実習 or オンライン実習

9月6日(水) 第8回 施設実習 or オンライン実習

9月7日(木) 第9回 施設実習 or オンライン実習

9月8日(金) 第10回 前半のまとめ、後半に向けた準備

9月11日(月) 第11回 施設実習 or オンライン実習

9月12日(火) 第12回 施設実習 or オンライン実習

9月13日(水) 第13回 施設実習 or オンライン実習

9月14日(木) 第14回 施設実習 or オンライン実習

9月15日(金) 第15回 まとめ、班ごとの発表

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事前に配布した講義の予定表の課題に対して事前学習を行い講義に臨むこと。講義前に事前学習を各授業につき1時間、講義後には課題について学んだことを1時間復習し疑問点は解決して理解しておくこと。実習前には、医療施設での行動、コミュニケーション、患者・入所者の安全についてよく学び理解した上で実習に臨むこと。

実習前講義を受講した後、実習を行う。

■ 成績評価基準(授業評価方法)及び関連するディプロマポリシー

以下の項目を評価・集計したうえで、GPAに基づいて成績とします。

評価項目: 対応する到達目標: 配点比率(%)

① 提出課題・レポート: 到達目標 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10: 50%(C・D・E・F・G・H・I・K)

② 実習先での評価: 到達目標 6, 7, 8, 9, 10: 50%(C・E・G・I・K)

■ 受講条件(履修資格)

医学科2年生、編入学2年生

■ メッセージ

「多様なニーズに対応できる医師」として、医療制度、医療安全、チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などのニーズに対応できるべく介護老人健康保健施設、介護老人健康福祉施設等で臨地実習を行います。挨拶を心掛け、入所者さん、利用者さんの安全に配慮して学びましょう。

実習前講義を受講した者に実習参加を認めます。認知症サポーター研修は、遅刻、早退すると研修修了とならないので注意してください。

■ キーワード

チーム医療、医療の現場におけるコミュニケーション能力、地域医療、地域包括ケアシステム、多職種連携、早期体験実習、患者安全

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1060>

授業言語

公衆衛生学

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
HB0040	HB-2-FS0015-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
佐藤 由美 [Sato Yumi], 牧野 孝俊 [Makino Takatoshi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ~	1

■ ■ 授業の目的

学生は、臨床医学と対をなす、公衆衛生学の基本を理解することができる。

■ ■ 授業の到達目標

学生は、公衆衛生の基本的な考え方を理解することができる。(DPの1)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

看護師・保健師の国家試験に合格するために必要な知識です。また、臨床に偏らない多角的な視点を持つために役立ちます。

ディプロマポリシーとの関連

- 保健医療の知識 ○
- 保健医療の技術 -
- チーム医療の理解 -
- 問題解決能力 ○

■ ■ 授業概要

保健師、看護師等の実務経験がある教員と非常勤講師（公衆衛生医師）により、実践例を活用した講義を行います。

個人を対象に診断治療などのサービスを提供する臨床医療とは異なり、公的責任に基づいて集団を対象に主に予防的サービスを提供する公衆衛生について、その理論と実際を教授します。火事を消すのが臨床医療だとすれば、火事を起させないのが公衆衛生で、公衆衛生は基礎的なサービスとして、保健医療には不可欠なものです。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義形式です。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	公衆衛生序論①（佐藤）
第2回	公衆衛生序論②（佐藤）
第3回	疾病予防と健康管理① 生活習慣と健康（佐藤）
第4回	疾病予防と健康管理② 生活習慣病（佐藤）
第5回	地域保健と保健行政（佐藤）
第6回	国際保健（非常勤講師）
第7回	環境保健①（非常勤講師）
第8回	環境保健②（非常勤講師）
第9回	疾病予防と健康管理③ 感染症（非常勤講師）
第10回	地域保健活動の実際① 感染症対策（非常勤講師）
第11回	地域保健活動の実際② 精神保健、難病対策（非常勤講師）
第12回	（非常勤講師）産業保健（佐藤）
第13回	学校保健（佐藤）
第14回	保健統計①（牧野）
第15回	保健統計②（牧野）
第16回	期末試験

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
 実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

復習に力を入れていただきたいです。
毎回の授業でさらに学習を深めたいことを1つ挙げて自己学習課題（宿題）とし、次回までに学習してきてください。

成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

成績評価は、課題提出(10%)と期末試験(90%)により行う。

「S」100～90点、「A」89～80点、「B」79～70点、「C」69～60点、「D」59点以下で、「D」は不合格とする。ただし、ただし、2/3以上の出席がない場合は期末試験は受験できない。

関連するDP：E,H

受講条件（履修資格）

保健学科2年生(看護・検査は必修、理学・作業は選択)

メッセージ

キーワード

公衆衛生 実務経験 active learning

この授業の基礎となる科目

なし

次に履修が望まれる科目

関連授業科目

看護学専攻

医療統計学（2年後期）、地域看護学総論（2年前期）、保健医療行政論（2年後期）、疫学（3年前期）

教科書

教科書1	ISBN					
	書名	シンプル衛生公衆衛生学2023				
	著者名	小山 洋, 辻 一郎編	出版社	南江堂	出版年	2022
	備考					

参考書

参考書1	ISBN					
	書名	国民衛生の動向2022/2023				
	著者名	厚生労働統計協会編	出版社	厚生労働統計協会	出版年	2021
	備考					

参考書2	ISBN					
	書名	公衆衛生がみえる2022-2023				
	著者名	医療情報科学研究所編	出版社	メディックメディア	出版年	2022
	備考					

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1961>

授業言語

医系の人間学 3A

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3001	MB-3-HS3001-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
廣村 桂樹 [Hiromura Keiju], 茂木 精一郎 [Motegi Seichiroh], 鯉淵 典之 [Koibuchi Noriyuki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	2

■ ■ 授業の目的

医系の人間学 3A～医療プロフェッショナルリズム 実践編～では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心を向け、異なる価値観・考えに耳を傾け、理解しようと努め、心情を想像する力を養う。また、医療の質と安全、多職種連携についても学ぶ。さらに、今まで学んできた医学知識も時に活用しながら、患者も含めて他者に寄り添い、心情を理解し、適切な対応を取ることができるようになるためのコミュニケーション能力を養う。

■ ■ 授業の到達目標

- 1 人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その背景に立って、患者を含め他者に寄り添うための経験知をふやす。(医B4, 医B5, 医C3)
- 2 相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。特に診療現場における患者の心情について推測できるようになることを目標とする。(医A5, 医C5, 医C6)
- 3 診療現場を中心に、さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につけ、わかりやすく適切な言葉を用いてコミュニケーションを図ることができる。(医C2, 医C4, 医C5, 医D2)
- 4 医療の質と安全や多職種連携に関する基本的な知識を身につける。(医B4, 医C2)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
 B：論理的・創造的思考力
 C：コミュニケーション能力（医C）◎
 D：社会的倫理観・国際性
 E：自己省察力（医A）◎
 F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）◎
 G：チーム医療の中で協働する力（医D）○
 H：基本的な総合診療能力（医E）
 I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）
 J：医学研究を遂行する能力（医G）
 K：自己研鑽（医H）

■ ■ 授業概要

グループ討論を中心に授業を行い、医療安全や、医療・介護の現場を中心とした、異なる立場の人々の心情理解を図ります。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義：演習で必要となる医学知識については適宜講義を行います。
 演習：少人数での課題提示とグループ討論、発表、教員による解説を組み合わせで行います。ロールプレイの手法を用いる回もあります。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 4月11日（火）4-6限 鯉淵典之 医系の人間学3 オリエンテーション
 第2回 4月18日（火）4-6限 池田佳生 臨床の現場から（脳神経内科学）
 第3回 4月25日（火）4-6限 木村孝穂 感染対策とワクチン接種について学ぶ
 第4回 5月2日（火）4-6限 廣村桂樹 臨床の現場から（腎臓・リウマチ内科学①）
 第5回 5月9日（火）4-6限 廣村桂樹 臨床の現場から（腎臓・リウマチ内科学②）
 第6回 5月16日（火）4-6限 岸美紀子 医療系学生に必要な感染対策
 第7回 5月23日（火）4-6限 廣村桂樹 振り返り
 第8回 5月30日（火）4-6限 佐伯浩司 臨床の現場から（総合外科学①）
 第9回 6月6日（火）4-6限 佐伯浩司 臨床の現場から（総合外科学②）
 第10回 6月13日（火）4-6限 大野達也 臨床の現場から（腫瘍放射線学①）
 第11回 6月20日（火）4-6限 大野達也 臨床の現場から（腫瘍放射線学②）
 第12回 6月27日（火）4-6限 廣村桂樹 まとめ

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

少人数グループ討議を中心としたケーススタディを行なうため、事前に配布する課題がある場合は、各自で事前学習を行い、十分な準備をした上で授業に臨むこと。また授業中の課題は期末レポートの題材となるため、しっかりと復習しておくこと。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

課題レポート（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

授業に臨む態度（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

期末レポート（40%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

なお、アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

学則変更の趣旨 - 60

受講条件（履修資格）

医学部医学科3年生

メッセージ

- 1 活発な議論を通じ、授業を楽しんでくれることを期待しています。
- 2 課題レポートの内容が不十分であると思われる学生にはフィードバックにより注意をします。
- 3 アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

アンプロフェッショナルな行動の4I分類

- 1 Involvement（授業への参加）
 - 1) 割り当てられた活動に欠席または遅刻する
 - 2) 締め切りを守らない
 - 3) 主体性がない
 - 4) 全般的な乱れ
 - 5) 手抜きをする
 - 6) チームワークの欠如
 - 7) 不適切な発言
- 2 Integrity（誠実さ）
 - 1) 試験での不正行為
 - 2) 嘘をつくこと
 - 3) 盗用
 - 4) データの捏造
 - 5) データの改竄
 - 6) 詐称
 - 7) 必要な同意を得ずに行動すること
 - 8) 規則の不遵守
- 3 Interaction（相互関係）
 - 1) 拙い言語的／非言語的コミュニケーション
 - 2) ソーシャルメディアの不適切な使用
 - 3) 適切でない服装
 - 4) 教育現場での迷惑行為
 - 5) プライバシーおよび守秘義務の侵害
 - 6) いじめ
 - 7) 差別的行為
 - 8) セクシャルハラスメント
- 4 Introspection（内省）
 - 1) フィードバックを避ける
 - 2) 自分の行動に対する洞察力が低い
 - 3) 他者のニーズに敏感でない
 - 4) 自分の不備ではなく、外的要因を責める。
 - 5) フィードバックを受け入れない
 - 6) 変化を拒む
 - 7) 自分の限界に気づかない

キーワード

アクティブラーニング、実務経験、準メディア授業

この授業の基礎となる科目

医の倫理学
医系の人間学2B

次に履修が望まれる科目

医系の人間学3B

関連授業科目

教科書

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=54>

医系の人間学 3B

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3002	MB-3-HS3002-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
廣村 桂樹 [Hiromura Keiju], 茂木 精一郎 [Motegi Seichiroh], 鯉淵 典之 [Koibuchi Noriyuki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	1

■ ■ 授業の目的

医系の人間学 3B～医療プロフェッショナリズム 実践編～では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心を向け、異なる価値観・考えに耳を傾け、理解しようと努め、心情を想像する力を養う。また、医療の質と安全、多職種連携についても学ぶ。さらに、今まで学んできた医学知識も時に活用しながら、患者も含めて他者に寄り添い、心情を理解し、適切な対応を取ることができるようになるためのコミュニケーション能力を養う。

■ ■ 授業の到達目標

- 人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その背景に立って、患者を含め他者に寄り添うための経験知をふやす。(医B4, 医B5, 医C3)
- 相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。特に診療現場における患者の心情について推測できるようになることを目標とする。(医A5, 医C5, 医C6)
- 診療現場を中心に、さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につけ、わかりやすく適切な言葉を用いてコミュニケーションを図ることができる。(医C2, 医C4, 医C5, 医D2)
- 医療の質と安全や多職種連携に関する基本的な知識を身につける。(医B4, 医C2)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解
 B : 論理的・創造的思考力
 C : コミュニケーション能力 (医C) ◎
 D : 社会的倫理観・国際性
 E : 自己省察力 (医A) ◎
 F : 知識の獲得と知識を応用する力 (医B) ◎
 G : チーム医療の中で協働する力 (医D) ○
 H : 基本的な総合診療能力 (医E)
 I : 地域医療の向上に貢献する能力 (医F)
 J : 医学研究を遂行する能力 (医G)
 K : 自己研鑽 (医H)

■ ■ 授業概要

グループ討論を中心に授業を行い、医療安全や、医療・介護の現場を中心とした、異なる立場の人々の心情理解を図ります。また、ロールプレイ演習も適宜行い、異なる立場の人々の心情理解の深化を図ると共にコミュニケーション能力を養います。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義：演習で必要となる医学知識については適宜講義を行います。
 演習：少人数での課題提示とグループ討論、発表、教員による解説を組み合わせで行います。インプロやロールプレイの手法を用いる回もあります。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 10月4日(水) 4-6限 伊東美緒 ユマニチュード
 第2回 10月11日(水) 4-6限 廣村桂樹 これまでの振り返り
 第3回 10月18日(水) 4-6限 松崎利行/高尾 隆 インプロ①
 第4回 10月25日(水) 4-6限 松崎利行/高尾 隆 インプロ②
 第5回 11月1日(水) 4-6限 福田正人/藤平和吉 臨床の現場から（神経精神医学①）
 第6回 11月8日(水) 4-6限 福田正人/藤平和吉 臨床の現場から（神経精神医学②）
 第7回 11月15日(水) 4-6限 茂木精一郎/遠藤雪恵 臨床の現場から（皮膚科学①）
 第8回 11月22日(水) 4-6限 茂木精一郎/遠藤雪恵 臨床の現場から（皮膚科学②）
 第9回 11月29日(水) 4-6限 対馬義人/高橋綾子 臨床の現場から（放射線診断核医学①）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

少人数グループ討論を中心としたケーススタディを行なうため、事前に配布する課題がある場合は、各自で事前学習を行い、十分な準備をした上で授業に臨むこと。また授業中の課題は期末レポートの題材となるため、しっかりと復習しておくこと。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

課題レポート（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

授業に臨む態度（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

期末レポート（40%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

* 医系の人間学3Bと3Cは合算して評価を行う。

なお、アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は、課題レポートの成績目標でも期末レポートの提出を認めないことがあります。

受講条件（履修資格）

医学部医学科3年生

メッセージ

- 1 活発な議論を通じ、授業を楽しんでくれることを期待しています。
- 2 課題レポートの内容が不十分であると思われる学生にはフィードバックにより注意をします。
- 3 アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

アンプロフェッショナルな行動の4I分類

- 1 Involvement（授業への参加）
 - 1) 割り当てられた活動に欠席または遅刻する
 - 2) 締め切りを守らない
 - 3) 主体性がない
 - 4) 全般的な乱れ
 - 5) 手抜きをする
 - 6) チームワークの欠如
 - 7) 不適切な発言
- 2 Integrity（誠実さ）
 - 1) 試験での不正行為
 - 2) 嘘をつくこと
 - 3) 盗用
 - 4) データの捏造
 - 5) データの改竄
 - 6) 詐称
 - 7) 必要な同意を得ずに行動すること
 - 8) 規則の不遵守
- 3 Interaction（相互関係）
 - 1) 拙い言語的／非言語的コミュニケーション
 - 2) ソーシャルメディアの不適切な使用
 - 3) 適切でない服装
 - 4) 教育現場での迷惑行為
 - 5) ブライバシーおよび守秘義務の侵害
 - 6) いじめ
 - 7) 差別的行為
 - 8) セクシャルハラスメント
- 4 Introspection（内省）
 - 1) フィードバックを避ける
 - 2) 自分の行動に対する洞察力ががない
 - 3) 他者のニーズに敏感でない
 - 4) 自分の不備ではなく、外的要因を責める。
 - 5) フィードバックを受け入れない
 - 6) 変化を拒む
 - 7) 自分の限界に気づかない

キーワード

アクティブラーニング、実務経験、準メディア授業

この授業の基礎となる科目

医の倫理学
医系の人間学3A

次に履修が望まれる科目

医系の人間学3C

関連授業科目

教科書

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=52>

医系の人間学 3C

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3003	MB-3-HS3003-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
廣村 桂樹 [Hiromura Keiju], 茂木 精一郎 [Motegi Seichiroh], 鯉淵 典之 [Koibuchi Noriyuki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	1

■ ■ 授業の目的

医系の人間学 3C～医療プロフェッショナルリズム 実践編～では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心を向け、異なる価値観・考えに耳を傾け、理解しようと努め、心情を想像する力を養う。また、医療の質と安全、多職種連携についても学ぶ。さらに、今まで学んできた医学知識も時に活用しながら、患者も含めて他者に寄り添い、心情を理解し、適切な対応を取ることができるようになるためのコミュニケーション能力を養う。

■ ■ 授業の到達目標

- 1 人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その背景に立って、患者を含め他者に寄り添うための経験知をふやす。(医B4, 医B5, 医C3)
- 2 相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。特に診療現場における患者の心情について推測できるようになることを目標とする。(医A5, 医C5, 医C6)
- 3 診療現場を中心に、さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につけ、わかりやすく適切な言葉を用いてコミュニケーションを図ることができる。(医C2, 医C4, 医C5, 医D2)
4. 医療の質と安全や多職種連携に関する基本的な知識を身につける。(医B4、医C2)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
 B：論理的・創造的思考力
 C：コミュニケーション能力（医C）◎
 D：社会的倫理観・国際性
 E：自己省察力（医A）◎
 F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）◎
 G：チーム医療の中で協働する力（医D）○
 H：基本的な総合診療能力（医E）
 I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）
 J：医学研究を遂行する能力（医G）
 K：自己研鑽（医H）

■ ■ 授業概要

グループ討論を中心に授業を行い、医療安全や、医療・介護の現場を中心とした、異なる立場の人々の心情理解を図ります。また、ロールプレイ演習等で、異なる立場の人々の心情理解の深化を図ると共にコミュニケーション能力を養います。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

- 講義：演習で必要となる医学知識については適宜講義を行います。
 演習：少人数での課題提示とグループ討論、発表、教員による解説を組み合わせで行います。ロールプレイの手法を用いる回もあります。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 12月7日(木) 4-6限 対馬義人/高橋綾子 臨床の現場から（放射線診断核医学②）
 第2回 12月14日(木) 4-6限 石井秀樹/小坂橋紀通 臨床の現場から（循環器内科学①）
 第3回 12月21日(木) 4-6限 石井秀樹/小坂橋紀通 臨床の現場から（循環器内科学②）
 第4回 1月11日(木) 4-6限 廣村桂樹 まとめ
 第5回 1月18日(木) 4-6限 調 憲/小川博臣/酒井 真 臨床の現場から（総合外科学③）
 第6回 1月25日(木) 4-6限 調 憲/小川博臣/酒井 真 臨床の現場から（総合外科学④）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

少人数グループ討論を中心としたケーススタディを行なうため、事前に配布する課題がある場合は、各自で事前学習を行い、十分な準備をした上で授業に臨むこと。また授業中の課題は期末レポートの題材となるため、しっかりと復習しておくこと。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

課題レポート（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

授業に臨む態度（30%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

期末レポート（40%）：到達目標 1, 2, 3, 4 (C,E,F,G)

* 医系の人間学3Bと3Cは合算して評価を行う。

なお、アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が良くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

■ ■ 受講条件（履修資格）

学則変更の趣旨 - 66

メッセージ

- 1 活発な議論を通じ、授業を楽しんでくれることを期待しています。
- 2 課題レポートの内容が不十分であると思われた学生にはフィードバックにより注意をします。
- 3 アンプロフェッショナルな態度をとり、注意されても改善の見られない学生は課題レポートの成績が悪くても期末レポートの提出を認めないことがあります。

アンプロフェッショナルな行動の4I分類

- 1 Involvement (授業への参加)
 - 1) 割り当てられた活動に欠席または遅刻する
 - 2) 締め切りを守らない
 - 3) 主体性がない
 - 4) 全般的な乱れ
 - 5) 手抜きをする
 - 6) チームワークの欠如
 - 7) 不適切な発言
- 2 Integrity (誠実さ)
 - 1) 試験での不正行為
 - 2) 嘘をつくこと
 - 3) 盗用
 - 4) データの捏造
 - 5) データの改竄
 - 6) 詐称
 - 7) 必要な同意を得ずに行動すること
 - 8) 規則の不遵守
- 3 Interaction (相互関係)
 - 1) 拙い言語的/非言語的コミュニケーション
 - 2) ソーシャルメディアの不適切な使用
 - 3) 適切でない服装
 - 4) 教育現場での迷惑行為
 - 5) プライバシーおよび守秘義務の侵害
 - 6) いじめ
 - 7) 差別的行為
 - 8) セクシャルハラスメント
- 4 Introspection (内省)
 - 1) フィードバックを避ける
 - 2) 自分の行動に対する洞察力ががない
 - 3) 他者のニーズに敏感でない
 - 4) 自分の不備ではなく、外的要因を責める。
 - 5) フィードバックを受け入れない
 - 6) 変化を拒む
 - 7) 自分の限界に気づかない

キーワード

アクティブラーニング, 実務経験, 準メディア授業

この授業の基礎となる科目

医の倫理学
医系の人間学3B

次に履修が望まれる科目

チームワークトレーニング, チームスキル演習

関連授業科目

教科書

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1063>

授業言語

チームワークトレーニング

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
HB0076	1031HB3FS00001	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
篠崎 博光 [Shinozaki Hiromitsu], 金泉 志保美 [Kanaizumi Shiomi], 山路 雄彦 [Yamaji Takehiko], 牧野 孝俊 [Makino Takatoshi], 齋藤 貴之 [Saitoh Takayuki], 松井 弘樹 [Matsui Hiroki], 野口 直人 [Naoto Noguchi], 佐藤 江奈 [Ena Sato], 李 範爽 [I Ponsoku]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~	2

■ ■ 授業の目的

1. I P E (Interprofessional Education)でもっとも大切とされる「共に学ぶ」という理念のもと、学生は学内演習や臨地実習の課題にチームで取り組み、専門職間の連携・協働のあり方について学ぶこと。(DP 1,3,4)
2. 学生はグループワークでチーム医療の基礎的知識を理解して実習計画を立案し、それに基づいてチームワーク実習を展開する。さらにその学習成果の発表を通して、学生は様々な分野におけるチームワークのあり方と専攻職種のみならず役割を理解する。(DP 1,3,4)
3. 本チームワークトレーニングでは、学生は専攻の異なる学生が互いの交流をととして、専攻の枠を超えた人間的連帯感を培い、チーム医療の心と実際を学ぶ。(DP 1,3,4)

■ ■ 授業の到達目標

専門職間の連携・協働についての基礎となる知識・技能を修得できる。(DP-1)
 チーム医療について理解し、専攻を超えたコミュニケーションができる。(DP-3)
 保健医療の諸課題に対して柔軟な思考ができる(DP-4)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- E：保健医療の知識（DPの1に関連） ○
 F：保健医療の技術（DPの1に関連） ○
 G：チーム医療の理解（DPの3に関連） ○
 H：問題解決能力（DPの2, 4に関連） ○

■ ■ 授業概要

前半ではグループの仲間を知ることから始まり、模擬症例の検討、実習課題の設定、実習施設や実習課題に関する資料収集、後半での実習計画の立案などグループワークを中心とした学内学習を行い、模擬症例検討後レポートならびに実習計画書を作成する。

後半では、病院、保健福祉事務所、訪問看護ステーション、リハビリテーション施設、精神保健施設などでの1日間の施設実習を行い、その実習成果の発表会、報告集の作成に向けてのプレゼンテーションの準備や原稿作りなどをチームメンバーと協力して行い、実習報告書を作成する。

さらに、医療安全に関するグループワークを、チームワークトレーニングならびにチームスキル実習受講者が協働して実施し、グループワークの成果に関するレポートを作成する。

チームワークトレーニングは、保健師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士ならびに医師などの実務経験を有する教員により学内演習が行われる。さらに臨地実習では実務経験者より直接チーム医療・多職種協働について教授される。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

1班の基本構成は看護学専攻4名、検査技術科学専攻2名、理学療法学専攻1名、作業療法学専攻1名、薬学専攻、医学科専攻希望者若干名とする。授業全期を通して1班に1~3人のグループ担当教員が担当教員として配置され、グループ学習、プレゼンテーションや報告書作成の指導を行う。

■ ■ 授業スケジュール

授業予定表

第1回 (4/7) (合同)

1. 講演：IPEと医療安全
2. オリエンテーション
チームワークトレーニングのすすめ方

第2回 (4/14)

1. 実習施設の概要紹介・グループ担当教員紹介
2. チームビルディング・話し合い
3. 実習施設決定（学生運営組織）

第3-4回 (4/21) (合同)

ノンテクニカルスキル演習

第5-6回 (4/28)

グループワーク① 模擬症例検討

第7-8回 (5/12)

グループワーク② 模擬症例検討 2 / 実習計画立案 1

第9-10回 (5/19)

グループワーク③ 実習計画立案 2

第11-12回 (5/26)

グループワーク④ 実習計画立案 3

〔模擬症例検討後レポート提出5月26日(金) 18時まで〕

第13-14回 (6/2)

実習オリエンテーション

グループワーク⑤ 実習計画立案 4

〔実習計画書提出6月2日(金) 18時まで〕

第15-18回 (6/9)

施設実習 (終日)

第19-20回 (6/16)

グループワーク⑥発表および報告書の準備 1

第21-22回 (6/23)

グループワーク⑦発表および報告書の準備 2

第23-24回 (6/30)

グループワーク⑧発表および報告書の準備 3

第25-26回 (7/7)

グループワーク⑨発表および報告書の準備 4

〔発表用スライド提出7月7日(金) 18時まで〕

〔配付資料用パワーポイント提出7月7日(金) 18時まで〕

第27-30回 (7/21)

チームワーク実習発表会

1. 発表会準備 8:50～10:30

・会場準備

・発表用パワーポイント試写

・進行係打ち合わせ

2. 発表会 10:30～15:30

3. 後片付け15:30～16:10

第31-32回 (7/28) (合同)

医療安全 症例検討

〔課題レポート提出7月28日(金) 18時まで〕

〔模擬症例(医療安全)レポート提出8月10日(木) 18時まで〕

〔報告書提出8月10日(木) 18時まで〕

* 実習施設等のご都合で変更されることがある。

実習開始時に配布される「チームワーク実習要項」を必ず確認してください。

* 各班の担当教員は授業開始時に発表します。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事前学習では、シラバスから講義の項目を調べる。事後学習においては、授業中の配布資料や講義内容を復習し、自らの知識として定着することを努める。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

PBL課題 (30%) EFGH

レポート課題 (20%) EFGH

授業への貢献度 (50%) EFGH

90点以上で5%以下の人をS評価、80-90点をA評価、70-79点をB評価、60-69点をC評価、59点以下はD評価とする。

(C評価以上を合格とする)

■ 受講条件（履修資格）

保健学科3年生（4専攻共通科目）

医学科4年生

■ メッセージ

各専攻学生が将来、専門職としてそれぞれの能力を発揮しながら、対等の立場で全人的医療を展開していくための基礎となる学習である。メンバーシップ、リーダーシップを発揮して主体的な姿勢で学習に取り組んでほしい。また、グループ担当教員の助言を有効に活用し、個性的なグループワーク、実習、発表を展開してほしい。

■ キーワード

医療、保健、福祉、チーム医療、全人的医療、アクティブラーニング、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

チームワーク原論、全人的医療論

■ 次に履修が望まれる科目

各専攻専門科目

教科書

参考書

参考書1	ISBN	4521737072				
	書名	チーム医療を成功させる10か条：現場に学ぶチームメンバーの心得				
	著者名	福原麻希 著,福原, 麻希,	出版社	中山書店	出版年	2013
	備考					
参考書2	ISBN	4758300402				
	書名	チームステップス日本版医療安全：チームで取り組むヒューマンエラー対策				
	著者名	東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理部編集,東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理部,	出版社	メジカルビュー社	出版年	2012
	備考					
参考書3	ISBN	4818020575				
	書名	TeamSTEPPS[OR]を活用したヒューマンエラー防止策：SBARを中心とした医療安全のコミュニケーションツール				
	著者名	東京慈恵会医科大学附属病院看護部・医療安全管理部編著,東京慈恵会医科大学附属病院看護部・医療安全管理部,	出版社	日本看護協会出版会	出版年	2017
	備考					
参考書4	ISBN	4818023612				
	書名	「チーム医療」とは何か：患者・利用者本位のアプローチに向けて				
	著者名	細田満和子 著,細田, 満和子, 1969-,	出版社	日本看護協会出版会	出版年	2021
	備考					
参考書5	ISBN	4326701102				
	書名	地域医療と多職種連携				
	著者名	藤井博之著,藤井, 博之,	出版社	勁草書房	出版年	2019
	備考					
参考書6	ISBN	4862762883				
	書名	恐れのない組織：「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす				
	著者名	エイミー・C・エドモンドソン 著,野津智子 訳,Edmondson, Amy C,野津, 智子,	出版社	英治出版	出版年	2021
	備考					
参考書7	ISBN	4862761828				
	書名	チームが機能するとはどういうことか：「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ				
	著者名	エイミー・C・エドモンドソン著；野津智子訳,Edmondson, Amy C.,野津, 智子,	出版社	英治出版	出版年	2014
	備考					

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1975>

授業言語

教科書・資料：「日本語」
講義・討論：「日本語」

地域保健医療論

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB6003	MB6PM06300	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
浜崎 景 [Hamazaki, Kei], 内田 満夫 [Mitsuo Uchida], 山崎 千穂 (助教) [Yamazaki Chiho]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	6年次 ~ 6年次	1

■ ■ 授業の目的

4年次後半からの地域保健実習、およびその発表会と集中講義を行い、さまざまな保健活動、医療制度についての知識と理解を深め、広く社会を意識しつつ、そのなかで、将来、医師となる自分を位置づけることができることを本授業の目標とする。

■ ■ 授業の到達目標

1. 公衆衛生の意義を深く認識・理解するために、4年次後半から保健関連施設での地域保健実習を行う。（医C3,医F1,3,4,医H1）
2. 6年次では公衆衛生に関する集中講義に参加し、同時に地域保健実習の発表会を行うことでより理解を深める。（医C3,医F1,医H1）
3. 公衆衛生的な考え方を身につけ、人々の健康を保つための保健・医療の社会性について考えることができる。（医F1,3,4）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B : 論理的・創造的思考力 ○
 C : コミュニケーション能力 (医C) ○
 D : 社会的倫理観・国際性 ●
 E : 自己省察力(医A) △
 F : 知識の獲得と知識を応用する力(医B) ○
 G : チーム医療の中で協働する力(医D) -
 H : 基本的な総合診療能力(医E) -
 I : 地域医療の向上に貢献する能力(医F) ●
 J : 医学研究を遂行する能力(医G) △
 K : 自己研鑽(医H) ○

■ ■ 授業概要

公衆衛生学の定義、疾病予防対策や地域保健などの公衆衛生の実際の応用例について講義し、また、4年次後半から地域保健実習を実施し、6年次に集中講義を行う。この集中講義では、各自の地域保健実習の内容について発表会を行ない、地域保健関連施設の意義や役割について理解を深める。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

4年次後半からの地域保健実習と6年次集中講義および地域保健実習発表会がある。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	5月8日（月）(9:00開始) オリエンテーション、講義（藤田晴康：臨床疫学1・2、小山洋：医師法・医療法）および 地域保健実習発表会 なお、講義時間と講師名は変更する可能性があるため、最新情報をMoodleで確認すること。
第2回	5月9日（火）講義（小林廉毅：医療経済と国民医療費）および 地域保健実習発表会
第3回	5月10日（水）講義（小野芳啓：プライマリケアと医師会活動）および 地域保健実習発表会
第4回	5月11日（木）講義（齊藤猛：精神保健、友利久哉：医療制度・高齢者保健）および地域保健実習発表会

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

4年次後半からの地域保健実習の内容をパワーポイントにまとめて発表を行うので、実習先の施設の概要や役割、意義、課題などを分かり易くとりまとめ準備して、発表を行うこと。なお、作成方法の詳細は事前に連絡をおこなう。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

評価項目（配点比率%）：対応する授業の到達目標（関連するディプロマポリシー）

- ①地域保健実習先における評価、発表内容およびレポート内容（50%）：到達目標1, 2, 3 (A, B, C, D, F, I, K)
- ②最終試験結果（50%）：到達目標1, 2, 3 (A, D, F)

■ ■ 受講条件（履修資格）

4年次後半から6年次

■ ■ メッセージ

講義の時間割は、教員や非常勤講師の都合により変更となる場合があります。学生は各自よく確認しておいてください。

キーワード

公衆衛生、地域保健

この授業の基礎となる科目

次に履修が望まれる科目

関連授業科目

教科書

教科書1	ISBN	9784524203758				
	書名	シンプル衛生公衆衛生学2023				
	著者名	小山洋	出版社	南江堂	出版年	2023
	備考					

参考書

参考書1	ISBN					
	書名	図説国民衛生の動向				
	著者名	厚生労働統計協会／編集,厚生労働統計協会,厚生労働統計協会,	出版社	厚生労働統計協会	出版年	2023
	備考					

参考書2	ISBN					
	書名	国民衛生の動向				
	著者名	厚生労働統計協会／編集,厚生労働統計協会,厚生労働統計協会,	出版社	厚生労働統計協会	出版年	2023
	備考					

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1106>

授業言語



医 第30081-7号
令和4年8月16日

厚生労働省医政局長 様

群馬県健康福祉部長 歌代 昌文
(医 務 課)



地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和4年8月10日付け4文科高第627号、医政発0810第4号に基づき、下記のとおり、令和5年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画及び都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

群馬大学医学部における地域枠：18名

担当：医師確保対策係 園田・高尾
TEL：027-226-2540（直通）
E-mail: imuka@pref.gunma.lg.jp

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学部医学科等)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	物理学演習	1後	1			○			1						
	化学演習	1後	1				○		1						
	自然科学演習・実験	1前	1					○	10	1	1	1			
	物理学	1前				○			1						
	化学	1前		2		○			1						
	生物学	1前				○			1	1		2			
	医系の数理学	2前	1			○			1			1			
	医系の国語表現(1)	1前	2			○			4		1	1			
	医系の国語表現(2)	1後	2			○			4		1	1			
小計(9科目)	—	—	8	2	0	—	—	—	12	2	2	4	0		
人間科学	医の倫理学	1	6			○			1		1				
	医系の間人学1A	1	3			○			3	1	1	2		演習	
	医系の間人学1B	1	3			○			1		1	2		演習	
	行動科学	2	1			○			1			1			
	医系の間人学2A	2	3			○			2	1	1	2		演習	
	医系の間人学2B	2	3			○			2	1	1	2		演習	
	医系の間人学3A	3	2			○			1	1	1	2		演習	
	医系の間人学3B	3	1			○			1	1	1	2		演習	
	医系の間人学3C	3	1			○			1	1	1	2		演習	
	臨床行動科学	3	1			○			1		1	3			
小計(10科目)	—	—	24	0	0	—	—	—	5	1	1	5	0		
生命医学Ⅰ	系統発生	1	2			○			2	1	1	3			
	医学統計学	2	1			○			1			1			
	医学情報処理演習	2	1				○		1			1			
	動物実験学	2	1			○			1		1	3			
	遺伝学	2	1			○			4	1	1	2			
小計(5科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	6	2	2	8	0		
生命医学Ⅱ	膜生理学	2	1			○			1	1		1			
	生化学	2	2			○			2	1	1	2			
	分子病態学	2	2			○			2	1	1	2			
	組織学	2	2			○			2		1	2			
	肉眼解剖学	2	6			○			1	1	1	2			
	神経解剖学	2	1			○			1		1	3			
	生理学	2	3			○			2	1	2	3			
	神経科学	2	1			○			1	1	1	2			
小計(8科目)	—	—	18	0	0	—	—	—	8	4	6	10	0		
生命医学Ⅲ	免疫学	3	1			○					1	1			
	細菌学	3	2			○			1	1	1	3			
	寄生虫学	3	1			○					1				
	衛生学	3	1			○			1		1	2			
	ウイルス学	3	1			○			1		1	1			
	医学研究実習	3	2					○	14	9	14	21			
	公衆衛生学	3	2			○			1		1	1			
小計(7科目)	—	—	10	0	0	—	—	—	14	9	14	21	0		

生命医学Ⅳ	薬理学	3	1			○			1	1	2	2	
	病理総論	3	2			○			2	1	1	3	
	法医学	3	1			○			1	1		2	
	検査学	3	1			○			1	1		1	
	発達と老化	3	1			○			2				
	主要症候と病態生理	3	2			○			4	1	2	2	
	小計 (6科目)	—	8	0	0	—			6	3	4	8	0
臨床医学Ⅰ	循環器	3	1			○			2	1	1	2	
	感染症	3	1			○			2	1	2	2	
	耳鼻咽喉・口腔顎顔面	3	1			○			1		1	2	
	呼吸器	3	1			○			1		1	1	
	腎臓病学・泌尿器科学	3	1			○			3	1	2	2	
	麻酔・救急	3	1			○			2	2	1	1	
	臨床薬理学総論	3	1			○			1		1	1	
	放射線基礎医学	3	1			○			2	1	1	1	
	小計 (8科目)	—	8	0	0	—			10	3	6	10	0
臨床医学Ⅱ	消化管	4	1			○			1		1	2	
	皮膚・形成外科	4	1			○			1		1	2	
	肝胆膵	4	1			○			1		1	2	
	産科婦人科学・周産期医学	4	1			○			1		1	2	
	血液学・リウマチ膠原病学	4	1			○			2		1	2	
	内分泌代謝・乳腺	4	1			○			2		1	2	
	臨床試験・臨床研究	4	1			○			1		1	2	
	放射線腫瘍学・腫瘍内科学	4	1			○			2		1	2	
	小計 (8科目)	—	8	0	0	—			8	0	6	12	0
臨床医学Ⅲ	脳・神経系	4	1			○			2		1	2	
	整形外科・リハビリテーション	4	1			○			1		1	2	
	小児科・小児外科	4	1			○			2		1	2	
	病理各論	4	1			○			2		1	2	
	画像診断・核医学・IVR	4	1			○			2		1	2	
	精神科・眼科	4	1			○			2		1	2	
	小計 (6科目)	—	6	0	0	—			6	0	3	6	0
臨床医学講義・演習	チームワークトレーニング	4			2			○	2			2	
	チームスキル演習	4						○	1			2	
	臨床推論TBL	4	1			○			1	1	2	2	
	臨床実習入門	4	6			○			1		2	2	
	臨床実習達成演習	5	6					○	1				
	実践臨床講義	6	8			○			27	13	1	10	
	地域保健医療論	6	1			○			1	1			
	小計 (7科目)	—	22	2	0	—			27	13	4	15	0
臨床医学実習	チーム医療実習	2	2					○	2		1	2	
	臨床基本手技実習	4	1					○	1	1	2	4	
	臨床実習1	5	23					○	29	20	9	28	
	臨床実習2	6	16					○	29	20	9	28	
	小計 (4科目)	—	42	0	0	—			29	20	9	28	0
合計 (78科目)		—	160	4	0	—			44	32	25	58	0
学位又は称号		学士 (医学)			学位又は学科の分野			医学関係					
卒業要件及び履修方法								授業期間等					
教養教育科目は2年次までに所定の単位を修得しなければならない。 専門教育科目は医学生として求められる資質・適性・能力に問題がないと認められ、全ての必修科目、共用試験CBT及びPre-CC OSCE、Post-CC OSCEに合格した場合に卒業とする。								1学年の学期区分		2期			
								1学期の授業期間		15週			
								1時限の授業時間		60分または90分			

兼30
兼30